

静薬学友会報

静岡県立大学薬学部同窓会報
2019年（令和元年）No.87号

近藤記念静薬学友会寄附講座開設に寄せて



湘南の海からの富士山 犬伏 式生(昭和39年卒)

県大卒業生も多数活躍中!

静岡で就職なら メディスン

静岡市内に薬局7店舗
健康食品・OTC 専門店1店舗展開

静岡県立大学薬学部連携薬局

株式会社 静岡メディスン

静岡市駿河区宮竹1丁目4番5号
TEL: 054-237-5316
E-mail: soumu@e-medicine.co.jp



わかくさ薬局グループ

「良き仕事は良き社員から、
良き社員は良き会社から」

これを信念に、
わかくさ薬局グループでは社員教育に力を注いでいます。

それは職場だけにとどまらず、経験を活かし、己を高め、
自己研鑽が楽しくなるような場の提供をしています。

いつでも、高きを仰ぐ気持ちを忘れずに。
日々を過ごすことに誇りを持ち、実践できるように。

わかくさ薬局グループ
代表 高橋 千恵子

つづきはWebで。
<http://www.stcy.co.jp>



静薬学友会報

2019 No.87

目次

薬学部長就任にあたって	眞 鍋 敬	2
近藤記念静薬学友会寄附講座開設に寄せて		
客員教授木下さんにOB皆で協力しましょう	近 藤 隆	4
一般社団法人静薬学友会の発足から一年を振り返って	安 倍 道 治	6
私の履歴書	木 下 俊 也	7
「内西いよ子基金」について	賀 川 義 之	8
平成30年度薬学生涯研修講座開催報告	若 林 敬 二	9
地区同窓会だより		
北海道／関東／東海／関西／中国／九州・沖縄		10
会員だより		
薬事功労者表彰受賞	細 野 澄 子 原 田 晴 司	17
静薬三四会の報告	安 藤 圭 子	18
平成9年卒同期会報告	浅 井 知 浩	19
静薬微生物学教室開設60周年記念同門会	黒羽子 孝 太	20
スキー教室開催60周年記念パーティー開催報告	大 石 哲 夫	21
静薬植物研究部OB会報告	美 崎 英 生	22
大学だより		
新任挨拶	木 村 俊 秀 米 澤 正	23
	大 澤 隆 志 杉 山 栄 二	24
	山 下 賢 二	25
薬学部教員の人事異動		25
研究室だより 生化学	衛生分子毒性学	26
薬理学	医薬生命化学	27
身体運動科学	生体機能分子分析学	28

医薬品製造化学	薬剤学	29
臨床薬剤学	臨床薬効解析学	30
医薬品情報解析学	実践薬学	31
医薬品化学	生命物理化学	32
医薬品創製化学	統合生理学	33
免疫微生物学	創薬探索センター	34
分子病態学	生体情報分子解析学	35
	創剤化学	36
	科学英語	37
薬学部教室名および教員一覧		38
今井康之教授最終講義のご案内		39
静薬学友会学生代議員・コラボレーターの活動		39
平成30年度成績優秀者賞・岩崎賞受賞		
	佐 藤 実 季 清 水 晃 介	40
	齋 藤 和 弘 牧 野 圭 祐	41
在学生だより	田 中 夏 暉 中 原 実 玖	42
	藪 内 雅 人 柴 田 尚 輝	43
	前 田 直 哉 清 水 聡 史	44
大学院学位論文		45
本部だより		
議事録		46
決算報告書		52
静薬学友会賞候補者募集要項		53
中国地区同窓会総会開催のお知らせ		54
東海地区同窓会薬剤師セミナー開催のお知らせ		55
静薬学友会ホームページをご活用ください		56
代議員一覧・役員一覧		57
編集後記	南 彰	58
第86号の訂正とおわび		58
正会員の皆様へ 会費納入のお願い		59
平成30年度会費納入者一覧		60
令和元年度薬学生涯研修講座参加申込書		
令和元年度薬学生涯研修講座案内		

「湘南の海からの富士山」

私は、写真をフィルム写真が大衆化される初期から始めていました。日光写真は以前に書いたところですが。

「写真機はライカ」の超高級機に、フィルムがブローニー判の大型写真機、さらに「二眼レフ」カメラが大ブームの頃、兄弟で富士登山を計画し記録用のカメラを「荷物はマッチ一本でも少ない方が良く聞く」の一言で、体積も小さくなるオリンパスのジャバラ式カメラを買い、しばらく愛用しました。素晴らしいレンズながらフィルムは裏の小窓で確認しながら巻き上げ、ピント・絞り・シャッタースピード、シャッターのセットもレンズ前方のレバーを倒しセットする全て手動式の物でした。カメラ購入理由がトラウマか、撮影会や撮影旅行に興味が無く、日常生活の中での感動した物・事象を撮り、ときにNHK投稿写真のTVを見て、自己満足しています。

今回の写真は、私の唯一の湘南の海からの富士山です。毎年正月恒例の「箱根駅伝」中継で、往路選手が最初に海岸に出る地点は茅ヶ崎、そのとき岸から約一四〇〇メートル沖の「姥島（うばしま）」、一般にはその形から「烏帽子岩（えぼしいわ）」が湘南シンボルとして紹介されます。昔はもう少し尖り、形も違い、幕府の砲筒や、進駐軍の射撃の標的とされたが、猛烈な市民の反対運動で現在の形で見えています。釣り場の名所でもあります。（事故で一時渡船中止期間あり）。写真は10年前に市の正月イベント「烏帽子岩巡り」に当選し、早朝に浜までの約四キロメートルを歩き、沖から「見られないだろう」と言われていた富士山を撮った写真です。

二〇一九年七月七日

犬伏式生（昭和39年卒）



薬学部長就任にあたって

静岡県立大学 薬学部長 眞鍋 敬

二〇一九年四月一日付で、前任の賀川義之先生より引き継ぎ、静岡県立大学薬学部長に就任いたしました眞鍋です。薬学部のさらなる発展のため、骨を粉にし身を砕く覚悟で学部長職を務める所存です。宜しくお願い申し上げます。

昨年度は、薬科学科・薬学科の分割入試導入の二年目となり、志願倍率がどうなるか心配していましたが、結果的には前年より上昇し、多くの受験生が志願してくれました。今後も魅力ある薬学部を積極的にアピールしていきたいと思っています。また、分割入試導入時から始まった新カリキュラムでは、早期体験学習の一環として二年次に新たに「ラボ訪問」の時間を設けました。学生たちが早くから研究室での最先端研究に触れる機会をつくることで、研究マインドの涵養を図っています。

研究室に配属された高学年の学生たちは、普段から一生懸命研究に打ち込んでいます。その結果、多くの学会・シンポジウムで学生優秀発表賞などを獲得しています。これらの情報は随時ホームページに掲載していますので、是非ともご覧いただければと思います。

また、薬学部の教員は多くの研究外部資金を獲得しており、その総額は右肩上がりです。昨年度は、平成二十五年と比較しても約一・七倍の研究資金を獲得しています。今後もさらに研究水準を上げられるよう努力していきたいと思っています。

さて、卒業生の方々にはこれまでも多くのご寄附を頂き、薬学部のために使わせて頂いています。昨年度も多額のご寄附を頂きました。中でも内西いよ子様から大学に頂いたご寄附により「内西いよ子基金」を立ち上げるこ

とができたのは大きなニュースです。今後、学生への奨学金など、薬学部の学生の支援に使わせて頂く計画です。

また、近藤隆様のご寄附と静薬学友会の方々のご尽力により「近藤記念静薬学友会寄附講座」を立ち上げることができました。寄附講座の客員教授として、卒業生の木下俊也様をお迎えし、卒業生のネットワークを活かした様々な教育支援活動に関わって頂きます。既に幾つかの授業で、様々な分野で活躍されている卒業生の方々に講演をして頂きました。また、学生の海外派遣支援事業も行っています。このような、同窓会組織が主体となる寄附講座が実現できるのも、静薬学友会の長い歴史と強い絆があればこそです。今後のさらなる発展が楽しみです。

ここまで良いことばかりを述べてきましたが、今後解決すべき課題・難題

も多い、と言わなければなりません。以下に三つだけ挙げさせて頂きます。

一つ目は、キャンパス内のバリアフリー化の促進です。すべての学生・教職員が安全かつ快適にキャンパスライフを送ることができるよう、これまでも大学事務局と連携してバリアフリーを進めてきましたが、まだ不十分であると云わざるを得ません。大学の施設・設備だけでなく、授業や実習の実施方法においても、改善しなければならぬことも多いと思っています。今後も教職員一丸となって取り組んでいきたい課題です。

二つ目は、教員業務の効率化です。大学評価や社会からの要請などのため、教員の業務負担は年々増えています。増えてきた業務の中にはもちろん、必要なものも多く含まれています。しかし一方で、本来最も重要な業務である

はずの教育・研究に、十分なエフォートを割くことができない状況が作り出されてしまっています。このままでは教育・研究の水準が低下し続けていくことになりかねません。今後、様々な事務的業務の効率化をより一層進め、教員が教育・研究に十分な時間を使うことができるようにしなければならぬと思っています。

三つ目に、薬学部 of 今後についてです。今各地で国立大学の統合・再編が進みつつあります。そして公立大学である静岡県立大学もその影響を受けることは間違いありません。もちろんこの問題は薬学部だけで決められることではありませんが、薬学部として将来どのようにすべきかについて、考える必要がありますし、議論も始めていきます。ひょっとしたら近い将来、「静岡県立大学」の名称が無くなる可能性でさえ否定できません。しかしそれでも静岡県立大学から静岡県立大学薬学部へと受け継がれてきた「静薬スピリット」は無くならないと確信していますし、また未来へきちんと継承していくのも我々教員の責務であると考えています。静薬学友会の皆様方には、今後ともこれまで同様にご支援を賜りますようお願い申し上げます。



開所式テープカット



平成31年4月13日 近藤記念静薬学友会寄附講座開所式 於 静岡県立大学小講堂

近藤記念静薬学友会寄附講座開設に寄せて



創立103年 8389名のOBの皆さまへ
学友会寄附講座について

— 客員教授 木下さんにOB皆で協力しましょう —

三洋薬品HBC株式会社 代表取締役 近藤 隆

(昭和46年卒)

私は、昭和46年（1971年）、今から48年前の本薬学部卒業生です。当時、鶴飼先生が学長を務めておりました昭和42年に入学し、入学後は、ESS (English Speaking Society) という英会話のクラブに入りました。1年生の前期の試験は、高校の時の勉強の延長ですから、無事単位を取れましたが、後期の試験では、14科目を落としまして、当時の学生部長の吉田先生から、14科目の追試（追加試験）を受けて、2年生に進級できたのは、お前が初めてだと言われたのを覚えてます。4年生になりました、小菅先生、全田先生、横田先生、辻先生、沢西先生が主催していました「製剤」という教室に入りました。静岡県の沼津の我入道という海の手つばの食中毒の原因

成分の解明を研究室が行っていましたので、下つ端の私は我入道で海つばをとって、貝を剥いて、身を取り出し、すりつぶす作業を行いました。すりつぶした身から、毒成分を抽出し、構造決定するのは、大学院の先輩の仕事です。他にも、新潟県佐渡島のトリカブトの活性成分の研究の為、急斜面の山に登って、トリカブトの採取を行いました。海つばやトリカブトの採取など、山と海の力仕事で、これが何で薬学生だろうと入学前、入室前には想像もありませんでしたが、おかげさまで大学の4年間は、楽しく過ごさせていただきました。卒業後は、地元の医薬品会社に入社しました。本学部長、薬剤師の主な進路としま

しては、創薬、製剤、調剤の3つの分野があります。創薬は、人間・生体の機能に関与する新しい成分を探索、あるいは、既存の成分の新しい効果、生体機能を探索研究する分野です。主として医薬品会社や大学の研究室に就業します。製剤は、この創薬で発見された新成分・新機能の物質を何万人という患者さんが使用できるように、体内吸収、安定性等を考慮して、大量に製造する分野です。医薬品、化粧品会社、健康食品の会社の製造や品質保証分野などに進みます。調剤は、創薬、製剤で出来た医薬品、健康食品、化粧品などの製品のうち、医療用医薬品についてお医者さんが処方した組み合わせで、調製し、服用方

法などを使用者に指導・説明する分野です。調剤薬局などに就業します。他にも色々な分野があると思います。変わったところでは、厚生省の麻取（麻薬の取締官）になって、ピストルを持って勤務している人もいます。その後、48年間一応真面目に働きました、終活（人生の終わり方）を意識する年代になった時、たまたま同級生の安倍さんと再会し、お互い仕事の第一線から離れる年代になりましたので、大学、本薬学部に何か恩返し、役に立つことをやろうという話になりました。なにか社会的にやろうとする時、産官学という言葉があります。産官学の産は、産業です。やはり同級生の岩崎さんが、調剤薬局を自ら経営し、10件以上の調剤薬局

のコンサルをやっています。調剤薬局という薬剤師の産業界の経験者です。

安倍さんは、厚生省（今は、厚生労働省）の薬務局の薬務課長を務められ、この薬務課は東京霞ヶ関の中央官庁として、日本の全ての医薬品、化粧品、診断薬、医療機器の製造販売の許認可権を持っていますので、医薬品・化粧品産業界をコントロール・管理する官庁の代表です。

又、やはり同級生の若林さんは、東京の国立がんセンター研究所長を務められ、今でも本学におられますが、学問の分野のリーダー経験者です。この産官学を経験する3名と話しました。

私たちは、昭和36年に国民皆保険（健康保険）が導入され、人生の大半を医薬品産業界の急成長、安定成長の時期を過ごしました。これも、本薬学部卒業生であり、薬剤師という職業のお陰です。

学生の頃は、なんで薬剤師と海つばの採取と関係するのか、なんでこの教科を学ぶのか分からないこともありました。逆に社会人になりますと、学生の頃、こういう学問、情報、知識を勉強しなかったのか、ギャップを感じることもあります。

この薬剤師としての社会人経験を薬剤師候補であります本学部の学生に直接語り、指導することで、より生きた学問を学び、静岡県立大学薬学部「シ

ズヤク」と言っていました。シズヤクここにありという学部とする為に、OBとして尽力しようとなり、その旨をOBの組織である静薬学友会の会長横倉さんに提案したところ、理事25名全員にも、ご賛同いただきました。このOB会としての活動内容を県立大学鬼頭学長に提案しましたところ、承認するというより、むしろ激励されました。OB・学生・教官が運営する講座は全国的にも珍しいので、是非有用な講座にして欲しいとお言葉を頂きました。

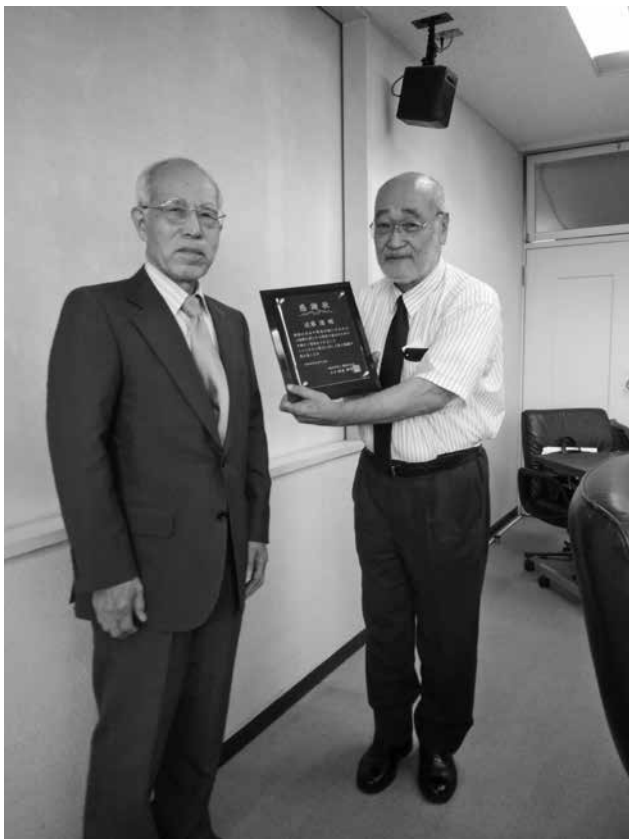
この講座の教授として就任されます木下俊也さんは、やはり、昭和53年の本学部の卒業生で、卒業後地元ツムラという日本一の漢方薬の会社に就職し、研究、企画、開発、学術、薬事、製造、品質保証等、薬剤師が医薬品会社で働く、全ての分野を経験し、その後、調剤薬局にも勤務し、現在は、静岡市薬剤師会の事務局長、本学友会の理事を務めています。木下さんのこの社会人としての経験は、本講座開設の目的に合うものであり、知識だけではなく、全ての経験を後輩のために、教示してくれると期待しております。本学部の卒業生は、8000名近くおり、色々な会社、分野で活躍しています。この全員が、必要なら、木下教授の要請により、教官として教壇に立つつもりだと思います。本薬学部OBと

しての誇り、感謝の気持ち、自分達の経験を後輩に直接伝え、本講座をシズヤクが誇る有用な講座、ブランド講座にしていただくことを期待しております。

OB会（学友会）の活動としましては、この本寄附講座以外にも、国内外の最先端医療・介護分野での研修、海外の大学、医療機関への留学・研修、国内外の先輩薬剤師が働いている職場での研修等、この資金援助、場所の提供、社会人としての経験の指導、就職の相談等を計画しています。

本薬学部は、1916年大正5年「静岡女子薬学校」として創立され、100年以上の歴史を有しています。8000名以上のOBが自分の経験、知識を学生に教える、又いずれば、今の学生さんも、実社会での経験を積んだ後、社会人として本講座の教官となるわけです。

薬学は、人類がある限り、永遠不滅の学問です。本講座が、本薬学部の創立150年、200年までも有用な講座となるよう、願っています。



静薬学友会近藤基金設立
感謝状贈呈式 理事会に於いて
左、横倉会長 右、近藤隆様



一般社団法人静薬学友会の発足から一年を振り返って

一般社団法人静薬学友会 副会長 安倍道治

(昭和46年卒)

2016年、静岡県立大学薬学部が創立百周年を迎えた頃、静薬学友会が、もう少し、社会的にも基盤のある、よりコンプライアンスを順守した組織に変容できないか、有志で思いを巡らしていたところ、同期で、起業して、功なり名を遂げ、財を築いた、近藤隆君と再会する機会がありました。彼が、今日自身があるのは、すべからず母校のおかげであり、少しでも母校に恩返ししたいと言ってくれたことが契機となり、静薬学友会の運営に携わっている同期の若林君と岩崎君、それに横倉会長とも相談して、静薬学友会を一般社団法人(非営利型)化し、その中に近藤基金を作り、学生への支援を事業の柱の一つとすることにより、薬学部の発展に寄与する組織に変えようということになりました。

新組織は、昨年4月に発足し、11の地区同窓会に対して、会員数に応じた代議員数を割り当てるとともに、現役の学生にも代議員として静薬学友会の運営に積極的に参画いただくことになりました。また、代議員から構成され

る社員総会を法人の最高意思決定機関

と位置づけるとともに、業務執行の責

任母体はこれまで同様、理事会として

存続することになりました。幸い、近

藤君からは、大口の寄付金をいただけ

ることになり、これを基金として管理

するとともに、その具体的な運用につ

いては、当時薬学部長であった本学出

身の賀川義之教授を通じて教授会の了

解をいただき、まずは、近藤記念静薬

学友会寄附講座を発足させ、寄附講座

のトップには、木下俊也さん(昭和53

年卒)を客員教授としてお迎えするこ

とになりました。講座の目的は、各界

で活躍する卒業生による最新の活動を

紹介することにより、学生の将来の進

路に対する早期意識付けや薬学に対す

るモチベーションの醸成を行うもので

あります。合わせて学生が海外に研修

や学会発表を行う際の支援や就職相談

への対応なども行います。本講座は、

当面は、既存のカリキュラムを借りて

講義を組みますが、将来は、独自のカ

リキュラムとして位置づけられるよう

まずは実績を積み上げることとしてい

ます。

この寄附講座の創設を第一弾として、

今後、静薬学友会としては、薬学部の

発展にどのような支援ができるか、引

き続き、薬学部と綿密に相談しながら

進めていきたいと考えます。

ところで、現在、医薬分業に対する

メディア等を通じたバッシングなど薬

剤師を取り巻く環境は、大変厳しいも

のがあります。他方、経済協力開発機

構のデータによりますと、人口10万人

当たりの薬剤師数は、日本が170人と断

突1位で、次いでベルギーが121人、米

国は92人、加盟国平均でも82人となっ

ています。日本はまさに薬剤師大国と

いえます。考えてみても、日本では新

生児数が年百万人を切る中、毎年1万

人を上回る薬剤師が誕生しています。

生まれてくる子供の1%が薬剤師にな

る状況は、とても正常なものとは言え

ないことは明らかです。現在、厚労省

においては、医療費の適正化・合理化

という視点で、医薬分業のありようが

あらためて議論されるとともに、医療

技術が進歩する中で医療の担い手とし

ての薬剤師の本来業務は何かという視
点で法改正を視野に議論が進められて
います。

このように薬剤師を取り巻く状況は
大変厳しく、薬学部も時代が求める薬
剤師の養成という視点で、教育の変革
が強く求められているものと理解して
います。今後、静岡県立大学薬学部が
公立であることの特徴を生かし、真に
地域医療に貢献できる薬学部として、
他の薬学部にはない優位性をもった学
部となることを静薬学友会の会員の
一人として、強く願うのであります。

最後になりますが、静薬学友会の運
営について一言触れさせていただきます
。静薬学友会は卒業生からの維持会
費が大きな活動の拠り所となっていま
すが、執行部の努力不足もあって、納
入率は、残念ながら20%程度です。会
員の皆様におかれましては、法人化し
た静薬学友会の新たな活動に対してご
理解をいただき、維持会費の更なる納
入やご寄附等のご支援を切に願います
次第です。

私の履歴書

近藤記念静薬学友会寄附講座

客員教授 木下俊也

(昭和53年卒)

この度「近藤記念静薬学友会寄附講座」の客員教授として講座の運営代表をつとめることとなりました。そこで自己紹介を兼ねて私の幼少時代から現在に至るまでを振り返ってみました。

昭和30年10月三重県津市生まれ。小学校時代は父の仕事（警察官）の関係で4回転校した。お陰様で幼い頃から周りの人を良く観察し、人と上手く付き合うという技が身に付いた。今の性格はこの頃に根付いたと思われる。

朝陽中学校入学時の夢はプロ野球選手。野球部では不動の4番キャッチャー。津高等学校に入学と同時に硬式野球部に入部し、甲子園を目指したが、朝から晩まで野球漬けで勉強が遅れはじめた。クラスの同級生は皆勉強できる人ばかり。このような状況が続くと留年するかも知れない、大学に行けないかも知れないと不安を感じたため、1年生の途中で練習量の少ない軟式野球に転部した。どうやら楽な方に転んだようだ。この時点でプロ野球選手になる夢は破れてしまった。でも軟式野球部では県大会で優勝し、東海大会に出場した。高校時代あまり勉強し

た記憶がなく、楽しく過ごした印象しかない。したがって、卒業時には浪人覚悟でいたが、運のみで静岡薬科大学に入学できた。本学に入学できて本当に良かったと思う。親元を離れての大学生生活はとても楽しかった。お昼休みに野球、夕方から日没まで野球。休日は練習か試合と体育会系に入学したような生活。今思えば、よく留年しなかったと思う。大学生活で恵まれたことは、素敵な同級生たち、野球部の先輩後輩、下宿先南条荘の諸先輩、小菅卓夫教室や辻邦郎教室の教職員、諸先輩など多くの素晴らしい人たちに巡り会えたことで、全てが今の私につながっている。今思えば、大学4年の時、寄附講座スポンサーの近藤隆さんとは、教室クリスマスパーティーで出会っていた。これも何かの縁です。

さて、大学卒業後、(株)津村順天堂（現在、(株)ツムラ）に入社。仕事は漢方薬の研究からスタートし、続いて新薬開発部門に異動。そこで非臨床試験、第I相試験、第II相試験、第III相試験と一連の開発過程を全て経験した。その後、学術部門、薬事部門を経て、最後は品質保証責任者。平成20年には、

北京で開催されたWHO世界伝統薬大会において日本の代表者として「Japanese KAMPO-YAKU」の演題で講演し、日本の伝統薬である漢方薬を世界に紹介した。

ツムラ在職時は、65歳で完全に退職しようと思っていたが、2年前に突然、地元自治会の重鎮の方々から、「是非、自治会長を務めて欲しい。」と依頼された。しばらく考えた結果、30年間の新幹線通勤にピリオドを打って退職し、地域に貢献しようとした。その日以降、地道にやっていることは、毎朝のジョギング中に、道路や公園に落ちて



WHO世界伝統薬大会で講演（北京）



毎日テニス選手権優勝時の表彰盾

いるゴミや空き缶を収集する清掃活動と、小学校近くの交差点でのぼり旗を持ち、子供たちの交通安全見守り隊をしている。もう2年経つが、この活動は今後も継続しようと思っている。

趣味はテニス。28歳まで現役で野球をしていたが、結婚してからテニスにはまっている。テニス競技における最高の勲章は、歴史ある毎日テニス選手権（ブリジストンオープン）男子ダブルス55歳以上の部での優勝。とにかく凄いことをした。今後も健康長寿のためテニスを続けようと思う。

最後にこの寄附講座での抱負は、当講座に相談にくる学生一人一人に対して真摯に向き合い、個々の学生に応じたアドバイスをを行うこと。学生たちが卒業し、何年か経って、「寄附講座のお陰です。」と感謝されるような寄附講座にしたい。

『内西いよ子基金』について

「内西いよ子基金」について、2019年2月8日に本学で贈呈式が行われ、当時薬学部長であった私も出席しましたので報告します。

内西いよ子様は1947年に本学の前身である静岡女子薬学校を卒業され、薬剤師として勤務されました。その後、東京都内で勤務されましたが、ご主人の死去に伴い生まれ育った静岡市内に戻られ、2018年に90歳で生涯を閉じられました。そのご遺言の中で、薬剤師として働いたことが人生の支えになったことから、母校の薬学生のために役立てて欲しいという思いがあり、遺産の1億5300万円余りをご親族を介して本学のおおぞら基金に寄附されました。おおぞら基金は静岡県立大学が設立した外部からの寄附金の受入および運用管理を行う基金であり、県立大学の教育活動、学生支援活動、地域貢献活動および国際交流活動等の充実に活用する寄附を募集・管理しています。おおぞら基金は静岡県立大学全体を対象としたものですが、内西さんのご遺言で薬学生のためにという強い意向があったことから、おおぞら基金の中で特定基金「内西いよ子基金」を立ち上げ、薬学生の就学や薬学部・大

学院の研究支援に限定した基金となりました。本基金の運用は2019年度から開始されています。

本基金の使い途については、薬学部教授会で検討中ですが、その一つとして薬学系博士課程の大学院生への奨学金給付などを考えています。昨今、社会問題化しているように、大学生および大学院生の就学を支える保護者の経済環境が厳しい状況が続いており、特に研究意欲が高く大学院博士課程を目指す学生の中には就学費用の問題で大学院進学を断念することがあり、大学院進学率の低下の原因になっています。研究室の中に博士課程の大学院生がいると、研究面での継続性が担保できることでより高い研究成果を達成できるだけでなく、下級生には相談できる先輩として研究活動や生活面でのケアも期待でき、研究室の活性化に繋がります。そこで、本基金を大学院博士課程学生の就学支援に有効に活用したいと考えています。

最後になりましたが、本寄附の実施にあたり、ご尽力を賜りました前学長木苗直秀先生（昭和40年卒）に厚く感謝を申し上げます。



「内西いよ子基金」贈呈式 2019.2.8 於 静岡県立大学

臨床薬学分野 教授（前薬学部長） 賀川 義之

（昭和58年卒）

平成30年度薬学生涯研修講座 開催報告

薬学生涯研修講座運営委員会 委員長 若林敬二
(昭和46年卒)

平成30年度薬学生涯研修講座は、平成31年2月24日(日)午後一時より、静岡駅近くの男女共同参画センターあざれあ2階大会議室にて行われました。超高齢社会を迎えた我が国においては、疾病の様相も大きく変化しており、それに伴い薬学領域の研究開発、国や地方自治体の薬事行政、病院や薬局における薬剤師業務も大きく変わってきます。

今回の研修講座は、「AI技術もたらす医療の進展と薬剤師の将来像」をテーマに、最初の講演では、株式会社ユヤマ学術部森和明部長が「調剤ロボット・システムと薬剤師の未来像について」と題し、ユヤマの取り組みを説明し、急速に変容する調剤薬局の実態について解説しました。次の講演では、ニプロ株式会社事業戦略室の水谷良夫氏が、「見守り支援システム ニプロハートラインについて」と題し、IoTを利用した在宅医療や地域の健康支援をサポートする取り組みに関する

最新情報を、具体例を示しながら紹介しました。

最後に、東京農業大学生命科学部分子微生物学科の野本康二教授による講演「腸内フローラと我々の健康との密接な関係」が行われました。講演では、最新のメタゲノム解析手法を用いた、腸内フローラ状態と肥満、免疫疾患、がん等の疾病発生との関連性の解明についての詳しい解説がありました。

更に、腸内フローラの中でも、特にビフィズス菌、乳酸菌等のプロバイオティクスが果たす疾病予防の重要な役割、その作用メカニズム等についての説明がありました。本講演会には、学友会メンバーや県内の医療機関で働く薬剤師等、約100人が参加し、活発な質疑、応答、意見交換が行われ、大変、実りある生涯研修講座になりました。尚、講演の座長は、静薬学友会の秋山欣三理事と木下俊也理事が務めました。



株式会社ユヤマ 森和明先生



東京農業大学 野本康二先生



ニプロ株式会社 水谷良夫先生



平成30年度薬学生涯研修講座 H31.2.24 於あざれあ

地区同窓会だより

北海道地区

来年是非いらしてください

地区同窓会代表 **水島 教之**

(昭和54年卒)

静薬学友会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は支部の運営にご協力いただきありがとうございます。

来年 2020年10月10日(土)・11日(日)に第53回日本薬剤師会学術大会が札幌で行われます。

この札幌大会に合わせて、学友会を開催したいと思っています。

今年度はその前段階として北海道地区同窓会を2月頃開催しようと思っています。

北海道はとても広く、日帰りではなかなか難しいです。

札幌―旭川間 140 km

東京―静岡 142.2 km

札幌―函館間 310 km

東京―名古屋間 263 km

札幌―北見間 326.7 km

札幌―釧路間 320 km

JR北海道 札幌―釧路

最終電車 19時40発 23時55分着

本当に北海道は広いです。

本部の人にもご来道いただき、大学の近況なども伺いながら、皆さんと楽しいひと時を過ごしたいと思っています。その節はよろしくお願いします。



関東地区

一般社団法人化後、初の総会を開催

地区同窓会代表 **仲谷 博明**

(昭和45年卒)

静薬学友会の一般社団法人化に伴い、関東支部も関東地区同窓会と名称を変えて初めての総会・講演会・懇親会を平成30年10月28日に開催し、絶好の秋日和の中、アルカディア市ヶ谷に総勢43名が集いました。

①総会

来賓挨拶・大家毅さん(S59卒)の司会進行で始まり、横倉輝男学友会会長から一般社団法人化の経緯、今後指すべき方向性等を伺いました。

活動報告・4年半前より支部長・地区代表を務めてきた私から、前回の総会以降2年間の活動状況を報告し、地区代表交代に当たって会員と幹事の皆様への感謝の気持ちを述べました。かつては必ずしも学友会活動に積極的ではなかった私ですが、今では、在校生をはじめとする後輩たちに魅力的に映る学友会でありたいと強く思う一人となりました。

会計報告・会計担当の後藤守男さん(S45卒)から平成28年度並びに29年度の決算報告をいただきました。彼は私と同期ですが、私など足元にも及ばないほど几帳面で、丁寧で、会計担当には最適でした(実は何をやらせても完璧な万能プレーヤー)。これまでに

も、支払証明書による経理処理を導入する等、収支の「見える化」に大変細かい神経を使ってくれました。あるベテラン幹事の方から、あの会社にもこんな几帳面で物腰の柔らかい人がいるんですね、およそあの会社のOBとは思えませんと評されました。同じ企業のOBとして何か微妙な印象を持った記憶があります。

新しい会計担当は、平成26年卒の加藤彩香さんにお引き受けいただきました。平成30年に博士課程を修了して医薬品医療機器総合機構に就職された才媛です。関東地区同窓会の幹事は、全国の地区同窓会と同様に高齢化が進んでおり、これまでは平成5年卒の佐藤泰士さんが最若手でしたが、一気に20年余り若返りました。

最後に会計監査の桶川修さん(S46卒)と稲葉良生さん(S50卒)からは、適切に実施されている旨のご報告をいただき、承認を得ました。

新地区代表の選出、事業計画・立候補はなく、幹事会の総意として本島玲子さん(S58卒)を推薦し、満場一致で賛同を得ました。地区代表も一気に13期分若返りました。皆さん、新生関東地区同窓会は若々しいですよ。若手の皆さん、参画してみませんか。前年度まで薬学部長を担われた賀川義之先生は同期で、学生時代の彼女のことを、頭脳明晰で近寄りたいたい存在だったと述懐してくださいました。私のようなグータラと違いますから、素晴ら

しい地区同窓会運営をして下さること
請け合いです。

そして早速、新地区代表の初仕事で
もある事業計画案の提示です。関東地
区登録会員は学友会全登録会員の約4
分の1を占めています。活動の活性化
に向けて、会員の把握、活動参加者の
職域拡大、学生時代からの意識づけ、
本部との連携、参加のメリットづくり
に取り組むことなどを挙げ、参加者の
賛同を得ました。

②講演会（目黒会共催）

薬学部の近況報告・賀川義之薬学部長
から静岡県立大学薬学部における、最
近の人事異動、入学者状況、薬剤師国
家試験合格状況、就職・大学院への進
学状況、研究実績、教育方針（4年
制・6年制への取り組み）、国際交流
等についてご紹介いただきました。現
役時代を思い出しながら大変興味深く
お話を伺いました。

健康機能食品の実態と活用について..
梅垣敬三先生（昭和女子大学生生活科学
部 食安全マネジメント学科 教授）に
ご講演いただきました。梅垣先生は昭
和60年に本学博士課程（薬理学専攻）
を修了され、国立栄養研究所（現国立
研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養
研究所）に入所。応用食品部室長、情
報センター長、食品保健機能研究所部
長を歴任され平成30年4月より現職に
就かれました。

保健機能食品の実態、現状の問題点
（情報の拡大解釈による誤認）、薬剤師
の果たす役割等について、分かりやす
く、興味深くお話し下さいました。中
でも私が気に入ったフレーズは「機能
性食品というのは実は、気のせい『食
品』というものでした。

③懇親会

記念撮影後の懇親会は、多田義孝さん
（H1卒）の司会での進行です。先ず
は中村真典さん（S51卒）の乾杯で始
まりました。旧交を温める方、講師を
質問攻めする方、脇目も振らずに料理
に向かう方など、賑やかな雰囲気でご

懇談頂きました。終了予定時刻を30分
ほど延長してもらい、本部の副会長で
もある安倍道治さん（S46卒）の中締
めのご挨拶で、名残を惜しみながらの
お開きとなりました。
地区同窓会の一番大きな行事である
総会、講演会、懇親会を、幹事はじめ
多くの方々のご支援で無事に終了する
ことができ、地区代表としての大役を
遣り遂げた満足感に浸ることができま
した。皆様、ご支援、ご協力、有難う
ございました。そして、本島新地区代
表へも倍旧のご支援を宜しく願いま
たします。



関東地区同窓会総会 H30.10.28 於アルカディア市ヶ谷

2018/19年度 地区体制

氏名	担当	氏名	担当
本島 玲子 (S58卒)	★地区代表	安倍 道治 (S46卒)	◆●
仲谷 博明 (S45卒)	●地区代表代行	大澤 勝一 (S59卒)	●
中村 真典 (S51卒)	地区代表代行	関本 征史 (H8修了)	●★*
大家 毅 (S59卒)	地区代表代行	太田 福子 (S44卒)	
多田 義孝 (H01卒)	★	後藤 守男 (S45卒)	
松浦 大輔 (H01卒)	★	富坂 修 (S45卒)	
中村 和重 (H04卒)	★目黒会代表	桶川 修 (S46卒)	会計監査
佐藤 泰士 (H05卒)	★	稲葉 良生 (S50卒)	会計監査
加藤 彩香 (H26卒)	★*地区会計	斉藤 喜孝 (S55卒)	*
		松本 正敏 (S57卒)	

◆本部副会長(1名) ●本部理事(4名)
★本部代議員(7名) *新任幹事

2018年10月28日現在

東海地区
東海地区同窓会「平成30年度総会・第42回薬剤師セミナー」を開催いたしました

地区同窓会代表 **松崎雅英**
(昭和60年卒)

平成30年12月9日(日)に静薬学友会東海地区同窓会「平成30年度総会・第42回薬剤師セミナー」をウインクあいち(名古屋市中村区名駅)にて開催致しました。愛知県や岐阜県などにお住まいの学友会員に加え、学友会から安倍道治副会長をお迎えし計17名の参加を頂きました。総会では、学友会の動向を踏まえ地区同窓会の今後の活動について意見が交わされました。安倍道治副会長からは、一般社団法人静薬学友会の発足経緯、近況、今後の方向性などを含めご挨拶を頂きました。

また、薬剤師セミナーでは、橋本直弥氏(平成15年院卒、愛知県がんセンター中央病院薬剤部勤務)、服部宏明氏(昭和54年卒、あおい薬局勤務)、近藤浩史氏(昭和61年卒、愛知県尾張県民事務所環境保全課勤務)のお三方からご講演を頂きました。

さらに、薬剤師セミナー後に

行なわれた情報交換会では、会員自身の活躍を称え合い親睦が図られました。以下に、お三方からの講演内容を記します。



第42回薬剤師セミナーに参加の会員の皆さん H30.12.9

講演要旨

**PBBMをご存知ですか？
薬剤師による支持療法的设计を
可能にするPBBM**

愛知県がんセンター中央病院薬剤部

橋本直弥
(平成15年院卒)

近年の高度化する医療の中で、患者に対して最適かつ安全な医療の提供を目的とした薬剤師の専門性が求められている。欧米では、医師と薬剤師が特定の患者の治療に関し契約を結び(権限の移譲)、合意の上で作成したプロトコルに従って、薬物療法を薬剤師が管理する「Collaborative Drug Therapy Management」(以下、CDTM)が実践されており、その成果は高く評価されている。しかし、薬剤師による「処方」が認められない本邦において、欧米の制度移行は極めて難しい。

そのような中で、平成22年の厚生労働省医政局長通知(医政発0430第1号)では、「薬剤師が医師・薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコルに基づき、専門的知見の活用を通じて、医師等と協働して実施すること」が奨励されている。日本病院薬剤師会でもプロトコルに基づく薬物治療管理(Protocol Based Pharmacotherapy Management、PBBM)という形で紹介されている。

一方、現在のがん化学療法は免疫

チェックポイント阻害剤等の新規抗がん剤の登場により高度化していく中で、その副作用もまた複雑化し、多岐におよぶ。そして副作用発現時の治療の主体は薬物療法が中心となるため、薬剤師の更なる貢献が求められている。安全ながん化学療法を施行するためには、適切な薬剤を適切な投与量で投与するだけではなく、副作用発現を最小限にするための支持療法も不可欠である。

愛知県がんセンター中央病院ではこのPBBMを試験的に導入し、がん化学療法に伴う副作用発現時には支持療法薬(副作用を軽減するための薬剤)の追加・変更を薬剤師が積極的、かつ効率的に行う取り組みを展開している。現在は支持療法薬のみであるが、今後は検査オーダーや抗がん剤自体の休薬・減量等に応用していく事を計画中である。

講演要旨2

**あるべき姿を見据えた薬局を目指して
地域包括ケアの一翼を担う**

あおい薬局 **服部宏明**
(昭和54年卒)

近年薬局を取り巻く環境は厳しさを増しております。調剤報酬で付託されたコストに見合う貢献が無いと言う指摘を各方面から受けております。まさに孤立無援の窮地に立たされているの

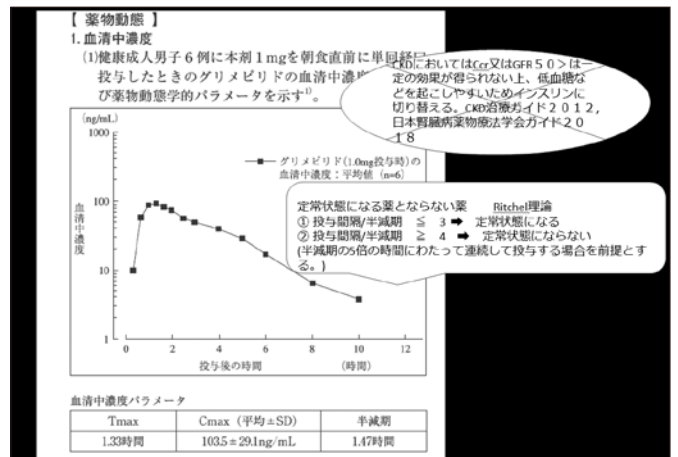
実習生への質問：以下の症例で昼前の空腹感について質問したのは何故か？
またこの方のHbA1cコントロール目標も考えてください。

65才 女性 2型糖尿病 CKD無し ADL良好
RP) グリメピリド錠 1mg 1T
イルベサルタン錠 100mg 1T N1x1 朝 56T
エクメット配合錠HD 2T N2x1 朝・夕 56T
アトルバスタチン 5mg 1T N1 x 1 夕(隔日) 28T
検査：体重(kg)=57.6 (2018/11/29)、57.7 (2018/10/11)
検査：血圧(上) [100~140](mmHg)=123 (2018/11/29)、136 (2018/7/12)
検査：血圧(下) [60~90](mmHg)=70 (2018/11/29)、73 (2018/7/12)
検査：HbA1c(4.3~5.8)(%)=7.1 (2018/11/29)、7.2 (2018/10/11)
検査：空腹時血糖(70~109)(mg/dL)=111 (2018/11/29)、105 (2018/10/11)
*脂質系の値は良好にて割愛
検査：CK(CPK)/女性(32~180)(I U/L)=244 (2018/11/29)、231 (2018/10/11)

薬歴抜粋：コンプライアンス良好 HbA1c、体重ともに変化なし。
CKはいつも高め。整形受診中、運動は制限するように言われている。
低血糖について質問した。自覚できる低血糖はない。
また昼前の強い空腹も見られない
朝食は6枚切り食パン1枚とサラダ、卵、今の食事をキープしましょう。

です。現状を打破し周りからも容認、さらには歓迎されるための方策を真剣に考える必要があります。
あおい薬局はなんの変哲もない普通の薬局です。平凡な薬局でもきつと出来ることがあるに違いないという信念で歩んで参りました。単に薬を渡すだけなら小学生でも可能です。説明をしてもしなくても報酬は同じ(だった)訳で、私達の仕事は、つい、楽な方向に陥りやすい危険性を秘めています。薬剤師に付託された仕事はなんだろう？常に考えて取り組む必要があります。

す。あるべき姿はその積み重ねによってこそ成し遂げられるものと確信しております。
小稿ではダイジェスト版ではありますが、弊局が患者さん等、また多職種の方々にどの様に接しているか、実際の薬歴や情報提供文書を用いてに紹介させていただきます。
上の図は実際の服薬指導において実習生に問いかけた内容です。
調剤において薬剤師は患者さん個々にあった治療ガイドラインを理解し、処方薬剤の薬効のみならず薬物動態・製剤学的特徴などの薬学的知見に基づいた分析と説明を求められます。
糖尿病の内服治療では自己血糖測定



(SMBG)は普通行いませぬので、低血糖の把握は簡単ではありません。グリメピリド1mgの場合ではTmaxが半減期から見ると低血糖のリスクが高いのは午前中であることが推察されます。単に「低血糖はありますか？」よりも時間軸でターゲットを絞った質問がなされるべきです。さらに踏み込んで、この薬は今回の処方において定常状態になり得るか？CKDが無いかなどの確認も必要です。
上のケースは一見安定した状態に見えますが、念のため高齢者の血糖コントロール目標から問題の有無を検証する作業も大切です。
地域包括ケアの一翼を担うためには

高齢者糖尿病の血糖コントロール目標について 2016年5月20日
高齢者糖尿病の治療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会

患者の特性・健康状態	カテゴリーI	カテゴリーII	カテゴリーIII
①認知機能正常 ②ADL自立	①軽度認知障害～軽度認知症 または ②手帳的ADL低下、 基本ADL自立	①中等度以上の認知症 または ③基本的ADL低下 または ④多くの併存疾患や 機能障害	
重症低血糖が 発症される 頻度(イン スリン製剤、 SII薬、グリ ド薬など) の割合	なし 7.0%未満	7.0%未満	8.0%未満
あり	65歳以上 75歳未満 7.5%未満 (下限6.5%)	75歳以上 8.0%未満 (下限7.0%)	8.5%未満 (下限7.5%)

治療目標は、年齢、罹病期間、低血糖の危険性、ワポート体制などに加え、高齢者では認知機能や基本的ADL、手帳的ADL、併存疾患なども考慮して個別に設定する。ただし、加齢に伴って重症低血糖の危険性が高くなることに十分注意する。

他職種を含めた情報提供の例

DPP4阻害薬で類天疱瘡が疑われたケース (他地域からの転医で在宅になったケース)
受信者 医師、ケアマネージャー、訪問看護師

5月19日18時に訪問しました。ディ後ということでもかなり疲れていました。ベットに横になっておりました。訪問時血圧139-91 P71 SPO2 98% 体温36.8℃でした。便秘に対してピコスルファートNa液が処方されましたが、初めてのことでしたので説明しました。大腸まで届かないと効果でないため、一般的には就寝前に10滴をコップ1杯の水に落として服用、効果により2滴づつ増減するように説明しました。時々咳き込んでおられました。奥様の話では夜間に咳嗽がひどくなるような事は無いが、時々寝た姿勢でなく座り込んだ姿勢でじっとしていることがあるようで少し気になりました。トラゼンタ中止になってますが、半減期が100時間もあり、全く消失するまでざっくり20~40日を要します。仮に湿疹の原因になっていた場合でもすぐには改善しません。ラコール半固形のスクイーパー(絞り補助器)はテルモの半固形流動食に添付されているものを別の施設から譲っていただき奥様に差し上げました。なおディ先方もほい希望がありましたので、卸様を通じてディ様より提供してもらいました。

医師をはじめ他職種の皆様との有機的な繋がりが必要です。なかなか取っつき難い分野ではありますが、薬剤師職能を活かした情報提供が効果的だと思います。
右例はリナグリプチン服用による類天疱瘡疑いの症例で、訪問前に私が看護師様から見せていただいた写真で両下肢の激しい水疱、びらんを認め、医師に情報提供して処方中止になったケースです。利用者様に於いては病状の一刻も早い回復を望みますが、半減期をもとに推定された消失時間を説明

しております。薬物動態や製剤学的な知見は薬剤師ならではのものです。他職種にとっても有用な場合が多く信頼関係の醸成に寄与します。

平成26年1月に医療薬学会から出された「薬局の求められる機能とあるべき姿」は今の医薬分業のあり方に鋭い問題を提起しています。この提言は本質をついたものであり、その後の調剤報酬体系の変遷を見てもこれが国の求めることを疑う余地はありません。多くの薬局にとって簡単に達成できる目標ではありませんが、それだけ期待も大きいと捉えたら如何でしょうか。

多職種の方々から薬剤師は顔の見えない存在と揶揄されています。患者さんや利用者さんからも同じように見えているように感じます。大学や現場での研鑽を通じ薬剤師の知識・技能は相当高度になっておりますが、それを実際の中で活かす工夫を重ねていけば打開は可能だと思います。同門の皆様と手を取り合いこの試練を乗り越えて新時代の薬剤師像を築けていけたら幸甚でございます。

講演要旨③

「愛知県の環境施策」

～県民みんなで未来へつなぐ～

環境首都あいちの取組み

愛知県尾張県民事務所環境保全課長

近藤浩史

(昭和61年卒)

愛知県は、世界初の環境をテーマとした国際博覧会である「愛知万博(愛・地球博)」(2005年)と、生物多様性保全のための新たな世界目標である愛知目標が採択された「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」(2010年)、ESD(持続可能な開発のための教育)を今後どう推進していくかが議論された「ESDユネスコ世界会議」(2014年)の開催という、貴重な経験を積み重ねたことから、地域全体に持続可能な社会への意識が高まるとともに、県民参加の機運が根付いています。その一方で、日本一のモノづくり地域として、世界に誇る厚い産業集積があります。

その高い環境意識や産業力・技術力を生かし、環境施策においてトップランナーである「環境首都あいち」として、持続可能な社会づくりに大きく貢献していくことを目指しています。

こうした中、環境政策の指針となる第4次愛知県環境基本計画を策定し、県民生活の基盤となる「安全で快適な暮らし」を確保しつつ、経済・産業活

動に常に環境配慮の視点が組み込まれる「環境と経済の調和」のさらなる進展が図られた地域づくり、県民みんなが「環境への負荷を減らす行動」をすなわち地域づくりを進めることで、2030年に向けた目標として、「県民みんな未来へつなぐ『環境首都あいち』の実現を目指すこととしています。

また、目標の実現にあたっては、多様な主体と連携・協働しながら、「安全・安心の確保」、「社会の低炭素化」、「自然との共生」及び「資源循環」に向けた4つの分野ごとに、具体的な取組を推進するとともに、総合的な施策推進のため、持続可能な未来のあいちの担い手育成「人づくり」に重点的に取り組んでいます。

※「東海地区同窓会薬剤師セミナーのお知らせ」を本号P55に掲載しております。

関西地区

地区同窓会代表 松田通明

(平成2年卒)

静薬学友会員の皆様におかれましては、お元気でご活躍のこと心よりお慶び申し上げます。昨年度より静薬学友会関西地区同窓会代表を仰せつかりました。今回、私を含む新しい役員(藤本司世話人、岩崎綾乃会計、澤下仁子幹事及び藤本勝博幹事)を中心とした関西地区同窓会の活動状況について、ご報告させていただきます。

これまでは先輩方のご尽力で関西地区同窓会を大いに盛り上げていただきましたので、令和の時代になってもその意志を受け継いで行きたいと考えております。関西地区同窓会を開催する際には、旧役員の方々のご協力も得ながら、実行委員会を組織して取り組みたいと思います。一方、当地区での現在の課題は、平成卒の同窓生の方々一人でも多く関西地区同窓会に参加いただくための仕組み作りと考えています。地区活動を活性化するためには、人と人とのつながりが大切であることは言うまでもありません。そのため、当地区ではまずは人脈の輪を広げるための活動に注力し、「どうすれば地区活動に興味を持っていただけなのか?」と、熱い思いをもってディスカッションを重ねるとともに、6年制課程を卒業された方を含む若手の同窓生にどのよ

うなニーズがあるのかのリサーチも併せて行っています。来年度には令和卒のピカピカの同窓生をお迎えすることになります。方針が決定し次第ご報告させていただきますが、関西地区同窓生の皆様、どうか一人でも多くの若手の同窓生を温かく迎え入れるためにも、これまで以上に同窓会活動への積極的な参加を是非とも宜しく願っています。

最後になりますが、これまで2年おきに開催していた関西地区同窓会総会につきましては、本来ですと来年の開催となりますが、上記の同窓生の輪拡張の土台作りを最優先とし、2020年の開催は見送らせていただきます。何卒ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

関西地区同窓会の新たな活動に乞うご期待ください。

中国地区

体験実習『済生丸による瀬戸内海巡回健診の見学体験実習』

地区同窓会代表 池田 潔
(昭和54年卒)

静薬学友会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

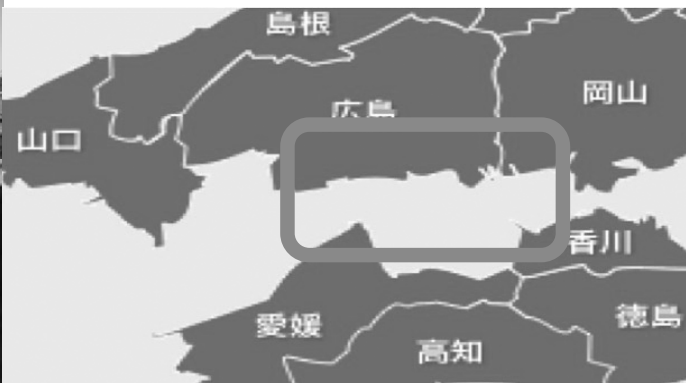
平素、地区同窓会の運営にご協力頂き心より感謝申し上げます。

昨年7月6日、西日本豪雨災害のために中国地区同窓会総会を1年延期し、今年は3年ぶりの開催となります。中国地方は土砂災害などの自然災害が多く、未だ仮設住宅に住み、復旧途上の被災地もあります。私も約1週間の被災者生活を体験しました。大学は1ヶ月近く休講となり、飲料水、生活用水、日々のトイレ用の水の確保のために毎日給水車のお世話になりました。土砂により呉線や道路網が寸断され呉地区は陸の孤島と化し、広島を出るために新広からバス、呉港からフェリーで広島港に向かい、市内電車でいつもの3倍の時間をかけて広島駅に辿り着きました。災害直前、初期の情報収集は、とても大事だと身を持って体験しました。教訓として災害から最低でも3日位の水、食料の備蓄は、自らの責任で準備することが基本です。自分の身は自分で守ることが基本です。被災生活の間、友人たちに洗濯、風呂、炊き出

しなどで大変お世話になりました。さらに卒業生からは支援物資を送っていただき、人の輪の大切さを強く感じました。本部からもご心配をいただき同窓会の絆を実感し、本部のご対応に感謝申し上げます。

広島国際大学では、広国教育スタンダードとして健康・医療・福祉からなる専門職連携教育(IPE)を進めています。前回に引き続き、本学の薬学部教授・杉原数美先生が取り組んでいる学生チャレンジプロジェクトの一環として「済生丸による瀬戸内海巡回健診の見学体験実習」をご紹介しますと思います。広島県は日本第二位の無医地区を抱えています。今回、へき地医療の現状について瀬戸内海診療巡回船に乗って島嶼部や離島における検診の在り方などを見て体験しました。

済生丸は日本国内唯一の巡回診療船であり、医療環境が整っていない瀬戸内海および豊後水道の島々のうち、岡山・広島・香川・愛媛の4県に属する島々の住民の医療を支援する目的で定期的に巡回しています。今回、済生丸での島民の健康診断を中心に、呉市蒲刈町への巡回診療に同行しました。済生丸は広島、岡山、香川、愛媛の各県にある済生会病院で運営されています。船内には、レントゲン室や内科検診用の機器などの設備を装備しており、胃透視検査、骨密度検査、胸部X線検査、マンモグラフィ、心電図などを行う



ことが出来ます。通常、医師、看護師、検査技師、放射線技師、事務職員、船員が乗船しており、訪問地により専門医や医療ソーシャルワーカーが同乗することもあるとのことでした。健診では、受付後、身長・体重測定を行い、医師の診察、各種検査を実施していました。患者さんからは、「病院が遠く、健康診断になかなか行けないので助かっている。」「2〜3年前から利用している。体のことを見てくれるので安心できる。」という感想を聞くことができました。移動中は、看護師や検査技師の方から済生丸の設備について説明を受け、診療船ならではの工夫について聞くことができました。今回の見学時は健診だけでしたが、診療を行うこともあるとのこと、医療アクセスの良い島々に居住する人々にとり重要な役割を果たしていることを知りました。薬学部をはじめ他の医療職学生も地域医療実習を行い、関心を高める必要性を感じました。

二回に渡り、広島県のへき地医療についてのチーム医療を目指す本学の活動を紹介しました。このようなへき地の現状を知り、今後、薬剤師としてどのようにへき地医療に貢献できるかを考えて活動を発展させていくことが重要だと思われまます。

今年度は、3年ぶりに広島にて静薬学友会中国地区同窓会総会(支部総会)を開催いたします。今回、岡山大

学薬学部生薬学教室・波多野力教授と、広島国際大学薬学部生薬漢方診療学教室・中島正光教授による漢方の基礎から実践的な漢方薬の使い方についての講演を予定しております。

皆様お誘い合わせの上、ご出席下さいますようお願いいたします。学友会活動へのより一層のご理解とご支援の程、お願い申し上げます。

日時：令和元年11月17日(日曜日)

12:30〜17:00

会場：ホテル広島ガーデンパレス

内容：総会12:30〜13:00

「静岡県立大学の近況」

静薬学友会会長 横倉 輝男 先生

(昭和40年卒)

講演会 13:00〜15:00

(1)「現代の漢方医療で薬剤師と薬学に求められるもの」

岡山大学薬学部 特任教授

波多野 力 先生

(昭和52年卒)

(2)「基礎から伸ばそう漢方パー

ジョンアップ薬能から考える漢方」

広島国際大学薬学部 教授

中島 正光 先生

(漢方医・西洋医)

懇親会 15:30〜17:00

※「中国地区同窓会総会開催のお知らせ」を本号P54に掲載しています。

九州・沖縄地区

幹事 橋本 治

(平成7年卒)

九州地区で病院勤務薬剤師をして、はや20年が経過しました。

平成7年に薬理学教室を卒業後、興和株式会社富士工場で品質管理部門に勤務しましたが、1年半で地元近隣の北九州で病院薬剤師として働くことになりました。

学生時代は、分析化学と微生物学が大の苦手でしたが(関係者の方すみません)、卒業後は品質管理部門で分析機器を使用したり、病院薬剤師としては感染制御や抗菌化学療法法の専門薬剤師として働き、学生時代にもっと勉強しておけばよかったと反省した次第です。

最初に働き始めた病院で、偶然にも大学の後輩が、先に病院薬剤師として働いていたので、静岡県立大学出身者も九州に結構いるのかと思っていましたが、その後は勉強会等でも大学出身の方々にお会いすることもなく、寂しい思いをしておりまました。

昨年度、薬理学教室の後輩の中山大輔君から、九州地区同窓会を開くので手伝ってほしいとの話をもらいました。これを機会に九州地区でも大いに同窓会を盛り上げていきたいと思っております。以下に中山支部長からの案内文を掲載しますので、ぜひ皆様参加の程、よろしくお願いいたします。

「九州地区の活動としては、今年10月中旬〜11月ごろに地区同窓会を開催すべく準備を進めております。この記事をご覧になりました九州地区の皆様にご興味ございましたら、御案内状など送付させていただきますので、ご一報くださいますと助かります。」

連絡先：中山大輔
携帯：090-4998-3438
e-mail: nakayama@dainamed.co.jp



会員だより

平成30年度薬事功労者厚生労働大臣表彰受賞に思うこと

細野澄子

(昭和51年卒)

ちこち飛び回っていた記憶しかありません。こうした「永年」の宝物は様々な立場の多くの人たちと知り合えたこと、様々な立場の多くの人たちがいると認識できたこと。

ではこんな素敵な宝物を見つけることができたそもその始めは：義父の言葉でした。「女の人は結婚して家に入ると外に出なくなる。それじゃいけないからどんどん外に出なさい。」単純な私はどんどん外に出て行ってしまいました。支えてくれたのは義父母、夫、子供たち。

指導助言をしてくださった諸先輩方、一緒に仕事をした仲間たち、そして家族がいたからこそ今回の荣誉に浴することができました。ありがとうございます。

「あなたは永年にわたり……」ということで昨年薬事功労者厚生労働大臣表彰を受賞し、生まれて初めて(たぶん最初で最後)厚労省に赴きドキドキしながら表彰式に臨みました。共に受賞した他県の先生方はみなさん自信にあふれ貫録も十分、場慣れした感さえあり、一人心細い思いをしてパイプ椅子に座っていたことが思い出されます。ところで私は「永年」何をしていたのでしょうか。あまり大したことはしてこなかったような気がします。大学を卒業し製薬会社に就職。結婚、出産、開局でも見切りをつけて検査所や薬局に勤務。一方市や県の薬剤師会の役員として会の事業の一部をお手伝いさせていただきました。その間無我夢中。学校薬剤師として環境検査で走り回ったり薬学講座で児童生徒の前で顔を赤くしながら話をしたり。臨床検査技師の資格で精度管理の仕事をしたり。(これは畑違いで頭の切り替えが必要でしたが、他職種の仕事が必要として結構面白かったです。)役員として県内外の薬剤師会の方々と他組織の方々と交流を深めたり。振り返るとあ



薩唾峠にて 2019.5

平成30年度薬事功労者静岡県知事表彰を受賞して

静岡市立清水病院薬剤部長

原田晴司

(昭和61年卒)



この度、平成30年10月18日、クイポール会館にて行われました静岡県、一般社団法人静岡県薬事振興会主催の2018年度薬事功労者表彰式において、県知事表彰を受賞いたしました。身に余る光栄をいただき幸甚に存じます。このような栄に浴することができましたのも、薬学の基礎から臨床まで幅広くご指導いただきました静岡薬科大学、静岡県立大学の先生方、学友会の皆様のおかげであるとともに、病院薬剤師として勤務する中でいただきました静岡県病院薬剤師会、公益社団法人静岡県薬剤師会など関係の皆様のご指導・ご援助と、何よりも職場の皆様や家族の支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

私の大学時代は学部・修士課程合わせて六年間すべてが小鹿の静岡薬科大学の校舎での経験であり、特に後半三年間は衛生化学教室で厳しい指導をいただき、社会人としての在り方を教えていただいた貴重な時間を過ごしました。大学四年の時に父親を亡くした自分にとって、父親代わりになってくれる存在がいたことは非常に幸運であり、就職して三十年経った今考えてみると、その時の経験が病院薬剤師としての自分に活かされていることを強く感じます。

静岡県立大学の卒業生は現在、医療・福祉関係の様々な方面で活躍されています。調剤や服薬指導はもちろん、教育、研究、医薬品の管理・流通、行政指導、医薬品情報提供など、そのひとつひとつの全てが、最終的には国民の健康維持増進に繋がっていることは間違いありません。特に、私達、病院薬剤師は直接臨床の現場で患者に向かい合い、患者の傷病治療、健康増進に寄与することができるとは貴重な機会を与えられている職業です。当院では今年から病棟薬剤業務実加算の算定を開始し、病棟において薬剤師が薬の適正使用、安全管理にその力を発揮してきています。数々の挫折を経験しながら、それでも患者のために何かできることはないか、皆で頭を悩ませている姿は誇らしく感じています。

是非、これから就職される方が、この文章を読んでいらつしやいましたらどんな方面に就職しても、大学や実務実習で学んだことを現場で活かして、医療人としての誇りを持って活躍いただくことを心より願っております。

私も今回の賞に恥じないように、より一層精進してまいります。

静薬三四会の報告

安藤 圭子

(昭和34年卒)

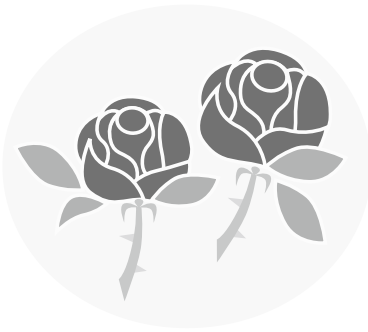
昨年の秋、平成三十年十一月二十五日、その同窓会である静薬三四会を開催しました。

一年振りでしたが集ったのは十一名、しかも全員が女性。正直な処、皆で驚いた。残念ながら長壽遺伝子を持つ女性の方が元気なのは当然とは理解しているだけに余りにも、ショックでした。

今後は皆様の要望で毎年、開催しますから、男性の皆様も、どうか、もう一度、元気をとり戻し参加いただけませうお待ちしています。次は来春、令和二年六月三日(水)を予定しています。前回、浜松市の秋野不矩美術館を見学しようかと話がはずんだものの、あいにく休館日でしたので、次回は、それにも配慮しています。駅前からジャンボタクシーで行きましょう。坂道、階段などなく、足が痛くても大丈夫です。この美術館は歴史は浅いけど中々、好評です。

今回の幹事は、清水武、山添節子、安藤圭子です。今迄の地区別の幹事でなく、丈夫な人が担当すること。次に、人数に関係なく、三人になるまで頑張ろうと、話し合いました。湿っぽい話になり恐縮でしたが、会えば六十年前の同窓生との語らい程、楽しいものはありません。私も近所のジムで自転車に乗ったり玉乗りなどに励み、次の同窓会を楽しみにリハビリをしています。小一年も先のことですが、皆様、健康に気をつけてください。

写真右より
伊藤 玲子 逸見 絹代
柴田 幸子 吉田 薫子
山本 昭野 太田 英子
小野田 従子 山添 節子
伏見喜代子 安藤 圭子
大嶽 英子



静薬三四会 同窓会 2018.11.25 於 ホテルクラウンパレス浜松

平成9年卒同期会報告

浅井 知浩

(平成9年卒)

令和元年7月6日(土)に平成9年卒の同期会をホテルセンチュリー静岡にて開催した。平成5年に入学したときから四半世紀以上が経ち、学部を卒業した頃と比べて年齢が倍くらいになったが、同期が集まると自然に昔と変わらない居心地の良い空間が形成された。平成9年卒の同期会は、卒業から10年後の平成19年に第1回を開催したのを皮切りに、以来4年おきに開催しており、今回で第4回目となる。第1回と第2回の間がたまたま4年空き、なんとなく4年ごとがちょうど良いという話になり、オリンピックイヤーの前年に開催するようになった。今回の同期会には一次会に26名、二次会に21名が参加した。二次会からの参加者もいたの、あわせて27名の参加であった。当初は7月13日(土)に同期会を計画し案内していたが、とあるイベントにより13日は静岡県全域で宿泊施設の空きがないことがわかり、急遽日程を変更するトラブルに見舞われた。そ

のような想定外のことがあった割にはよく集まったと思う。中には北海道から駆けつけてくれた参加者もあり、普段なかなか会うことが難しい同期と再会する貴重な機会となった。会は大変盛り上がり、二次会は21時30分までの予定だったが、実際に終わったときには日が変わっていた。学生時代の関係性で何でも話しているうちに時間が過ぎるのを忘れてしまったのではないかなと思う。

これまでと同じペースであれば、今回は令和5年に同期会を開催するであろう。入学した平成5年から数えて30周年になる。また一人でも多くの同期に参加してもらい、旧交を温めてもらえれば幸いと思う。ただ4年空くと連絡先がわからなくなることがしばしばで、今回も案内が届いたかどうかかわからない同期がいる。この記事を読んで「案内が来なかった。」「〇」という同期はasai@u-shizuoka-ken.ac.jpにご一報いただけると幸甚である。なお、今回の同期会は、静薬学友会にご支援いただいで開催した。末筆ながら、静薬学友会に心より深謝申し上げる次第である。



平成9年卒同期会 2019.7.6 於 ホテルセンチュリー静岡

静薬微生物学教室

開設六十周年記念同門会

免疫微生物学分野 講師

黒羽子孝太

(平成8年卒)

1958年(昭和33年)静岡薬科大学に微生物学教室が開設され、昨年、六十周年を迎えました。静岡薬科大学微生物学教室、静岡県立大学微生物学教室(現、免疫微生物学分野)では、これまでも5年毎に静薬微生物学教室同門会を開催してきました。2018年は研究室の「還暦」をお祝いしようと10月27日(土)静岡グランドホテル中島屋にて、約90名と多くの方々にご参加いただき開設六十周年記念同門会を開催致しました。

祝賀会の前には、前教授の柳原保武名誉教授に「梅毒から垣間見た医学史の断片的側面」というテーマで御講演をいただきました。柳原先生のこれまでのご活躍が伺える御講演で、更には最新の知見も含まれた大変興味深いお話でした。先生が、1998年に退官されてからも、今尚、現役の研究者である事を実感いたしました。

講演会の後は、会場を移しまして祝賀会となりました。現教授の今井康之先生にご挨拶いただき、研究室の現在の様子などをお話いただきました。

引き続き、柳原保武先生にご挨拶をいただき、懐かしい静薬微生物学教室のお話をご紹介いただきました。次に、同門会長の増澤俊幸先生(現、千葉科学大学薬学部教授)に乾杯の御発声をいただきました。祝賀会のなかほどでは、静薬学友会、横倉輝男会長にご挨拶いただき、静薬学友会のご紹介もしていただきました。会場のあちこちからで思い出話に花が咲き、研究室所属当時を懐かしむ様子が伺えました。また、現在の大学や薬学部、研究室の様子などについても、卒業生の方々から現所属学生に質問いただいております。あつという間に時間が過ぎ、前准教授、川島博人先生(千葉大学薬学部教授)のご挨拶をもちまして閉会となりました。その後も、多くの方々が二次会に繰り出されて行かれました。

静薬微生物学教室開設六十周年記念同門会では、多くの卒業生、修了生にご参加いただき、誠にありがとうございました。今後も5年毎に静薬微生物学教室同門会を開催していく予定でございますので、多くの卒業生の方々のご参加をお待ちしております。



今井教授のご挨拶



静薬微生物学教室開設六十周年記念同門会 2018.10.27 於 静岡グランドホテル中島屋



柳原名誉教授を囲んで



増澤先生によるご乾杯

スキー教室開催60周年記念 パーティー開催報告

薬学部客員教授(平成27年退職)

大石 哲夫

静岡薬科大学時代の1960年に石坂均先生によって、白馬乗鞍の地で始められたスキー教室はスタイルを変えながら静岡県立大学に移行後も継続され、今年で60周年を迎えました。

白銀の世界をこよなく愛する仲間の強い希望によって、6月16日(日)、記念パーティーが本学はばたき棟地下の食堂に於いて開かれました。

遠くは岡山から、県内外の60名を超すOB諸兄、中には西湖ハーフマラソンを走破して駆け付ける者、テニスがゲーム終了後来る人、会には仕事で出られないが受付だけは、と来られる人雪はないけれど、いい仲間と一緒に時間を過ごしたいと強く思う多くの関係者が集まりました。

古くはスキー教室開設当時の方から、2〜3年前に卒業をした方々まで、あらゆる年代のOB諸兄、常宿のオーナー、いつも一緒に参加されるお子さんの姿もみられました。

スキー教室と同様、このパーティーも全てボランティア活動の上になりました。連絡、会場手配設営、式進行、食事、飲み物、記念品、写真撮影、終了後の会場復帰、片付け、清掃、ごみ処

理までと、誰が指導するわけでもないのに最初から最後まで見事に完結されました。

このスキー教室は、日本のどの大学においても見られない素晴らしいシステムが構築されておりました。

卒業生がボランティアで後輩学生を指導する、時間、規則にとられることのない親身になってのレッスンは、現地のインストラクターよりスキー技術こそ劣るものの、初心者の気持ちに寄り添った心のこもった指導は、寒風の吹きすさぶ中、学生の心に暖かく響いたはずで。

「二つ屋根の下、同じ釜の飯を食う」共に過ごすことにより人生の先輩との距離は近くなり、フランクに色々なことが話せるようになり、指導の合間に必然として訪れるリフト上での会話は、机上の講義とは一線を画する貴重なレクチャータイムとなりました。

先輩からのダイレクトな助言は、技術指導だけにとどまらず、自ら実践しているスキーが日常にもたらす幸福感、良い人間関係構築、充実する生活、卒業後の色々な職種の情報、やりたい仕事のための事前準備等、現役学生にとり実に貴重な生の声となったのです。

諸事情により、現在は学生の募集はなくなりしました。しかし、60年間に培われたスキー教室の良き流れはとどまるところを知らず、学生の公の募集こそありませんが、OB諸兄のスキーに対

する熱意は強く、ご本人はもとよりご家族、友人知人の参加意欲は極めて高く、毎年1月の連休時に開催されているスキー教室は、今だに定宿となっているご主人を定員オーバーで悩ませる状況にあります。

昼の12時に会が始まると、あちらこちらにできる仲間の花は、集散を繰り返し、功労者の感謝状、諸先輩のご挨拶を挟みながらも話題は弾け続け、途切れることがありませんでした。

進行役も宴の終わりを伝える隙間を見つけることが難しく、嬉しい戸惑いをかくせませんでした。

大学での宴も時間に押され締めざるを得ないも、会は二次会へと移り、メンバーの多くがお世話になっているとかかつ屋さんで場所を変え、さらに延々と楽しい時間は過ぎていきました。非情にも迫る新幹線の出発時間が、次の雪上での再会を約束し、夢から覚めるがごとく、それぞれの世界に戻る気持ち促し、解散となりました。

今後、静岡県立大学に学生参加のスキー教室が再開されるのか、その価値を知る若者(教員)が今、頑張ろうとしています。

我々はそのサポートをできる日が一日も早く訪れることを願っています。



静薬植物研究部OB会報告

美 崎 英 生

(昭和33年卒)

本年も植物研究部恒例のOB会を実施した。植物研究部は本学開校当初からあったようで、原田利一先生の元で「生物部」として発足、1957年に静岡薬科大学植物研究部(以下、「植研」とする)に改名し現在に至る。当時の植研の部誌「前葉体」の創刊号は1955年発行である。大学が静岡薬科大学から静岡県立大学薬学部に変更になるまでは学内に植研は存在したようであるが、その後解散したようで、我々OBにとつては寂しい思いを禁じ得ない。植研は生薬学の授業で植物採集の宿題が出ることから、1年生の約50%近くの学生が入部する大所帯であったが、実質の活動は1学年せいぜい10名程度で、植物採集の宿題が終わるとほとんどが退部していった。そんな中、熱心に活動した卒業生が集まり、1996年に植研部の顧問をして下さっていた故斉木保久、故上野 明 両先生を囲む会として発足、その後は毎年実施している。本会は植物観察だけでなく、会員が撮影した世界中の珍しい植物や野鳥を紹介するスライド会も実施している。

上の旅である。ほとんどの人は学生時代に訪問したことのある思い出の地、目標は礼文島固有種のレブンアツモリソウ、レブンソウ、レブンウスユキ、レブンコザクラ、レブンサイコ、レブントウヒレン、などである。特に、レブンアツモリソウは50年前と異なり、島民の保護活動により株数が飛躍的に増えており、島の最大の観光資源になっている。参加者たちは往年の恋人に再会したように喜び、盛んにカメラのシャッターを切っていた。他にランではノビネチドリ、ハクサンチドリに至るところで観察できた。また、珍しいものでは、ギンランに似たクゲヌマランがあり、私も初めて見るものだった。サクラソウの仲間ではレブンコザクラ、サクラソウモドキ、エゾコザクラなどを見ることが出来、他にも本土に住む我々にとつては珍しい花たちに会えることが出来た。今回歩いたのは、桃岩周辺と、そこから島の最南端、知床までのフラワーロードと、北は浜中からレブンアツモリソウの群生地通り、澄海岬まで礼文島を横断、そこから、ゴロタ岬を経由し、日本最北端のスコトン岬まで歩いた。さすがに花の島礼文島である。どのコースも花が咲き乱れ、利尻島や島の美しい海岸線の景色を満喫出来た。結構な歩行距離であったが、脱落者もなく、無事、観察会を終えることが出来た。また、夜は恒例のスライド会、各自自慢の写真を持ち寄り、珍しい植物や野鳥の美しい姿に

会話が弾んだ。一方、体調を考慮し、植物観察を遠慮し、52年前に訪問した時に体育館に3泊させて頂いた上泊小学校を訪れ、52年前の思い出に浸る者もいた。木造だった校舎は立派な校舎になり、現在は小学校ではなく、礼文島の歴史資料館になっていた。植研部のメンバーも年々高齢化が進み、参加出来ない方も増えてきたが、本会の継続を望む方がいる限り実施したいと思っています。



レブンアツモリソウ



静薬植物研究部OB会 礼文島にて

大学だより

新任挨拶

薬理学分野 准教授 木村俊秀



平成31年4月1日付で薬理学分野准教授に着任いたしました木村俊秀でございます。どうぞ、よろしくお願いたします。わたしは、名古屋大学薬学部薬理学講座で学位を取得した後、大分大学医学部薬理学講座で助教、准教授をつとめました。この度は、伝統ある静岡県立大学において教育や研究に携われることに、大きな喜びと責任を感じております。

わたしは一貫して、細胞内で分子スイッチとして働く「Gタンパク質」について研究を行なって参りました。名古屋大学では、Gタンパク質Rhoを手がかりに、神経軸索の形成メカニズムを解析しました。タンパク質を扱うために朝から夜まで4℃部屋に入り浸った日々でしたが、体の疲労はあるものの心は軽く充実した大学院時代を

過ごしました。この時の経験より、研究の楽しさを学生に肌で感じてもらうことがわたしの役目であると認識しております。わたしは、一連の研究を通して神経細胞の発生機序を明らかにできただけでなく、神経変性疾患を理解する上で重要な知見を得ることができたのではないかと考えております。

大分大学に着任後は、Gタンパク質Rabに着目し、膜B細胞からのインスリン分泌制御機構を解析しました。この時期は、実験当初より仮説を覆す想定外の実験結果が相次ぎ、毎日が驚きと感動の連続でした。また、指導学生や研究補佐員の方々の頑張りもあり、小さいながらも「新しい概念」を提唱することができました。この時の経験を生かし、想定外の結果や一見すると失敗に思えるデータからも何か面白い現象を読み取り感動できる学生を育てたいと考えております。本研究は、現在も引き続き実施しております。静岡県立大学では、上記研究を進展させることで、増え続ける糖尿病に対する新たな治療法の開発にも挑戦したいと考えております。静薬学友会の皆様には、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

医薬生命化学分野 講師 米澤 正 (平成14年卒)



平成31年1月1日付で医薬生命化学分野講師として着任いたしました、米澤正と申します。学生時代は医薬生命化学講座にて奥直人教授に師事し、博士課程を修了。国立国際医療センターのポスドクを経て、岩手医科大学薬学部にて約10年間研究・教育に携わっております。この度浅井知浩教授主宰となった医薬生命化学にて機会を頂けたこと、大変嬉しく思っております。

悪くなると元に戻らないと考えられている腎に対して、薬物送達技術を活かすことによってこれまでにないブレイクスルーを生み出したいと考えております。

慣れ親しんだ講座への復帰ですが、時の流れとともに学生は変わっております。私自身が変化を恐れず、学生時代にラグビー部で身につけた体力と精神で研究・教育に邁進する姿を学生に見せることによって、彼らが自身の未来を前向きに捉え、考えられるような機会を提供したいと考えます。

静岡の外におりますと、思わぬところで県立大学薬学部あるいは静薬の卒業生の方々と遭遇することがよくありました。また会報にて皆様のご活躍を拝見する度に「私も」と奮い立たせて頂いたものです。今後静岡県立大学薬学部・静薬学友会が発展を遂げるよう、出来ることに対して全力で取り組む所存でございます。皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。

ポストドク時より、腎疾患研究をメインに研究を行っており、腎における脂質代謝に着目しながら様々な腎疾患に対する治療研究を遂行してまいりました。糖尿病などの生活習慣病や透析の原因にもなる慢性腎臓病（CKD）の予防は厚生労働省の政策の一つにもなっており、CKDという言葉の普及とともに積極的な取り組みが必要とされ、注目を集めている分野です。一度

臨床薬学分野 講師 大澤隆志



平成31年4月1日付で臨床薬学分野の講師として着任致しました大澤隆志と申します。宜しくお願い致します。静岡県立大学で薬学生の教育と研究に携わる機会を頂き、関係各所の方々に感謝申し上げます。また、ご挨拶する機会をいただきました静薬学友会事務局の方々にも御礼申し上げます。

私は、金沢大学・大学院にて博士前期課程まで過ごしました。在学中は、国際保健薬学研究室にて発展途上国やインターネットに流通する医薬品の品質に関する研究を行ってまいりました。その後、浜松医科大学医学部附属病院薬剤部に就職し、薬剤師業務に従事しながら、抗がん剤のバイアル表面汚染を指標とした品質評価や医薬品の自主回収に関する研究など様々な研究を行ってまいりました。特にボルテゾミブの血球移行性を解明した研究では、

社会人大学生として所属した浜松医科大学大学院にて博士（医学）を取得することができました。PK/PDの解明による治療の最適化は、薬剤師の職務ともいえる研究かと存じます。今後も、様々な薬物治療の個別化、最適化につながる研究を努めていきたいと存じます。

近年、薬局や病院に勤務する薬剤師にはこれまでの臨床における薬剤師職能のみならず、治療根拠の構築のための研究を行い、その成果を学会や論文に発表することが求められています。また、研究職など薬剤師以外の職においても薬学の専門家として臨床現場の知識を求められると思います。薬学生が薬学的知識に加え、臨床や研究における薬剤師職能や薬学的志向、創造力を求められる環境において、私の経験が薬学生教育の一助となれば幸いです。大学教員として至らない点も多いかと存じますが、本学の薬学部および静薬学友会の発展に精進してまいりますので、皆様方にはご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

生体機能分子分析学分野 助教 杉山栄一



平成31年4月1日付で生体機能分子分析学分野の助教に着任いたしました杉山栄一と申します。私は東北大学薬学部薬学科を卒業後、浜松医科大学大学院医学系研究科に進学し博士号を取得しました。その後、昨年度まで慶應義塾大学医学部にて研究に携わりました。静岡で生まれ育った私にとって、伝統ある静岡県立大学で再び薬学部に戻る機会を得たことは大きな喜びです。

私はこれまで、生体試料中に「何」が「どこ」に「どれだけ」含まれるかを一度に調べる分析法（イメージング質量分析）の開発と応用を進めてきました。この分析法は低分子化合物の局所代謝解析に特に有用であり、私は主に脂質やモノアミン系神経伝達物質に関する研究成果を報告してきました。また、関連技術の発展が目覚ましく、分析化学の進展が生命科学を推し進め

る一つの手段であることを実感してきました。本学では、これまでの研究をさらに発展させ、健康福祉の増進に寄与するよう努めてまいります。

教育活動にあたり、学生が自由に深く学べる環境の整備に取り組みたいと考えております。私自身にとって、実務実習や卒業研究だけでなく、薬剤師が担う職域やその国際的な違い、医学研究と保健医療の差等について考える機会を頂いたことが進路決定に影響しました。また、東日本大震災を経験し、現場の薬剤師の活躍や「薬剤師のための災害対策マニュアル」策定現場の一部に触れたことも、現職を志す契機となりました。こういった経験から、薬学科・薬科学科を問わず、学生がキャリアプランについて早期から考えることが肝要と考えています。卒業生が多様な環境で自分らしく活躍できるように精一杯取り組む所存です。未熟者ではございますが、静薬学友会の皆様にはご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

医薬品創製化学分野 助教 山下賢二



平成31年4月1日付で医薬品創製化学分野の助教として着任いたしました。山下賢二と申します。創立100年を超える伝統ある静岡県立大学で教育と研究を行う機会を与えてくださり、深く感謝申し上げます。私は名古屋大学で博士号を取得した後、米国プリンストン大学で博士研究員として研究に従事してまいりました。そのため、静岡での生活は今回が初めてとなります。静岡に移り住んでまだ数ヶ月ですが、暮らしやすい気候と人の温かさ、自然の豊かさを実感しております。今後も多くの静岡の魅力に触れ、静岡生活を楽しんでいきたいと思えます。

私は工学部出身であり、学生時代から現在に至るまで有機合成化学を専門として研究に取り組んでまいりました。有機合成化学は、「分子レベルでの「ものづくり」の根幹を担っており、実際、

有機合成化学を駆使して、これまでに多くの医薬品や農薬、新材料などが創出されてきました。日本は「ものづくり大国」として、優れた業績を挙げ、日本経済を支え、さらには世界に認められる「信頼」を築き上げてきました。ここまで発展できたのは、日本人が得意とする創意工夫、できるまで諦めない執念や精神文化が根強くあったのだと強く感じております。この点は、我々にとつての強みであり、今後も変えることなく、深く、質の高い研究を行なっていきたいと考えております。本学では、工学部での経験を活かしつつも、研究のアウトプットとして創薬研究への展開を重視した研究に取り組んでいきたいと思えます。教育活動においては、研究を通じて有機化学を俯瞰的立場から理解するとともに、創造力や問題解決能力の養成を行い、次世代の薬剤師・創薬研究者を多く輩出できるよう努めていきたいと思えます。まだまだ不慣れで、至らぬ点多々あるかと存じますが、静薬学友会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

薬学部教員の人事異動

退職

統合生理学	准教授	海野けい子	平成31年3月
臨床薬剤学	講師	石井 康子	平成31年3月
医薬品創製化学	助教	川戸 勇士	平成31年3月
創剤科学	助教	木村晋一郎	令和元年6月
創剤科学	准教授	岩尾 康範	令和元年8月

着任

生命物理化学	講師	原 幸大	平成30年10月
医薬生命化学	講師	小出 裕之	平成30年10月
生体情報分子解析学	准教授	坂本 多穂	平成30年11月
薬剤学	講師	佐藤 秀行	平成31年1月
医薬生命化学	講師	米澤 正	平成31年1月
臨床薬効解析学	講師	平井 啓太	平成31年4月
薬理学	准教授	木村 俊秀	平成31年4月
臨床薬剤学	講師	大澤 隆志	平成31年4月
生体機能分子分析学	助教	杉山 栄二	平成31年4月
医薬品創製化学	助教	山下 賢二	平成31年4月

研究室だより

生化学分野

生化学分野では、鈴木隆教授を中心として、核酸やタンパク質と並ぶ第三の生命鎖である糖鎖の機能解明と創薬への応用を目指し、ウイルス・神経・がんをキーワードに、高橋忠伸准教授、南彰講師、紅林佑希助教がそれぞれ研究室を担当し、研究を進めております。当分野では現在、基礎研究のみならず、広島国際大学の池田潔教授（昭和54年静岡薬大卒）をはじめ他分野の先生方との共同研究により、糖鎖利用技術の開発にも取り組んでおります。また、紅林助教は本年4月より1年間、米国ニューヨーク州のロチェスター大学に留学中です。現在、当分野は大学院博士後期課程1年1名、大学院博士前期課程2年3名・1年1名、学部4年6名・5年4名・6年4名の計19名の学生が所属しています。

学生は精力的に研究に取り組み、学会発表では数多くの賞を受賞しています。ここ1年間の受賞は、老化促進モデルマウス（SAM）学会学術大会若手研究奨励賞（三上靖代さん）、日本薬学会東海支部大会ベストプレゼンテーション賞（大嶽瞳さん、横山喬太さん、藤岡愛里さん）、日本薬学会年会学生優秀発表賞（内野峻介さん）、次世代を担う若手ファーマ・バイオ

フォーラム優秀発表賞（大嶽瞳さん）、糖鎖科学中部拠点奨励賞（大嶽瞳さん）、静岡健康・長寿学術フォーラムポスター賞（榎原佳子さん、三上靖代さん）、The 4th International Conference on Pharma-Food Poster Presentation Award（三上靖代さん）です。

その他、最近の研究内容や研究成果、トピックスについては、当研究室のホームページ（<http://www.pharma-u-shizuoka.ac.jp/~biochem/>）をご覧ください。静岡にお越しの際はぜひ研究室にお立ち寄りください。教職員一同、卒業生の皆さまに会えることを楽しみにしています。



2019年3月20日謝恩会にて（ホテルセンチュリー静岡）

衛生分子毒性学分野

吉成教授が赴任して6年目となりますが、年々人数が増え、現在のメンバーは、教員4名、客員共同研究員1名、研究補助スタッフ8名、社会人大学院生4名、学生23名の合計40名です。この人数は本学薬学部の中でもトップクラスではないかと思われれます。このような大所帯で日々、ウェットな実験（動物や細胞等を用いた生物系の実験）はもちろん、ドライ解析（データベイスなどを利用したコンピュータ解析）も精力的に進めています。教室セミナー（学生による自身の研究発表または文献紹介）も週に1回ほどのペースで行っており、各々が全員の研究について理解したり、最近の学術的知見を取り入れるよう励んでいます。また、教員4名と各研究グループ（1研、2研などの単位）によるグループミーティングも月に1回のペースで実施しています。ここでは、学生が直近1か月の研究データを説明後、ディスカッションを行い、今後の方針などを決めるとともに、グループ内での相互理解を深めます。

今年には医薬品毒性機序研究会にて志津助教が優秀発表賞、日本毒性学会学術年会で修士2年の米川さんが学生ポスター発表賞、日本薬学会東海支部総会・大会において6年生の大垣内さんが学生優秀発表賞を受賞しました。また、当研究室が昨年 *Journal of Toxicological Sciences* 誌に発表した論文が今年の日本毒性学会田邊賞を受賞しました。このように着実に当研究室の研究成果が評価されてきています。

近年は他の研究室との交流を深めるため、2016年度より4年生の卒業・中間発表は薬理学分野、生体情報分子解析分野と合同で行っており、また、一昨年より医薬品創製化学分野および薬理学分野との3階研究室合同ポウリング大会も始めました。今後ますます研究室間の交流を活発にしていきたいと思えます。

末筆ながら、同窓生の皆様におかれましては今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



2019年4月 芝生公園での花見にて

薬理学分野

OB会

【平成31年度秋のOB会】平成31年11月23日 やきとり屋すみれ
 参加者：学生 18名、卒業後10年以内のOB/OG 7名

【令和元年度春のOB会】下記を予定していましたが、台風により中止致しました。

令和元年7月27日 さかなや道場草薙駅前店
 参加者：教職員、学生 23名、卒業後5年以内のOB/OG 10名

薬理学教室では毎年春と秋に卒業生に声をかけ、在校生、教職員との交流会を開催しております。こうした会は、先輩の生の声を聴けることもあり、在校生にとって大変有意義な機会となっています。

次回イベント告知

【令和元年度秋のOB会】令和元年度10月中旬 静岡駅周辺
 たくさんの卒業生のご参加をお待ちしております。

お知らせ

今年度4月、大分大学医学部より木村俊秀先生が本研究室の准教授として着任されました。木村先生は膝β細胞のインスリン分泌顆粒のエンドサイトシスに関するシグナル伝達の解析

をご専門にされています。

研究活動

薬理学教室では、現在、主に糖尿病関連疾患を研究ターゲットとし、薬理的解析はもとより、電気生理学、生化学、分子生物学、遺伝子工学的解析を駆使することで、膵内分泌細胞や肝星細胞の機能調節に関わるシグナル伝達研究を行っています。

研究を行う上で最も大切なことは、研究の背景を理解し、その研究の目標や目的を明確に定めることです。そして、実験終了時には、その研究成果を英語論文として発表することが大切です。研究体制は変わっても、今後こうした研究のプロセスを学生が実践できるよう、指導を続けていく所存です。



2019年4月3日 顔合わせ・お花見（静岡県立大学）にて

医薬生命化学分野

医薬生命化学教室では、「薬物送達

学の力でくすりを創る」ことを最終目標とし、がん、脳梗塞、炎症性腸疾患などをターゲットに、ナノテクノロジーを基盤とした薬物送達システム（DDS）の研究を行っています。教室内一同が、切磋琢磨しながら日々研究に励むとともに、研究の間際には、ソフトボールやバドミントン、フットサルなどのスポーツ、教室旅行、バーベキュー、飲み会を行い、親交を深めています。今年6月に研究室旅行として山梨県の川口湖に行ってきました。毎年恒例である4年生の一発芸大会では、練習の成果を披露し大いに盛り上がりました。最近の出来事としては、2018年10月より小出先生が講師に昇任されました。2019年1月には、医薬生命化学教室の卒業生である米澤正先生が岩手医科大学から当研究室に講師として着任されました。また、2019年4月からは宋復燃先生が特任助教として着任し、教員4人体制で研究室を運営しています。所属学生は、2018年9月に佐伯 涼子さんがNANO DDS 2018国際学会にて「Travel Award」を受賞しました。2019年4月に開催された病院・薬局実習発表会では、片桐 百恵さんが病院実習口頭発表の部で優秀発表賞を受賞、増田 彩香さんは病院実習ポスター発表と口頭発表で優秀発表賞

をW受賞しました。2019年7月に日本DDS学会で柳田 洋翼くんが優秀発表賞、2019年7月に日本薬学会東海支部にて鈴木 ひかるさんが優秀発表賞を受賞しました。また、奥直人名誉教授が、2019年9月に開催されるLiposome Research Daysにて日本人として初めてBangham Awardを受賞することが決定しています。同賞は、リポソーム研究において顕著な貢献・成果をあげた研究者に授与される賞です。最近の研究成果ならびに教室の活動状況はホームページに掲載してありますので是非ご覧下さい (<http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~radiobio/>)。



2019年7月24日 医薬生命化学教室集合写真

身体運動科学分野

准教授 窪田 辰政

本学にて任し身体運動科学分野を担当して5年目を迎えました。担当科目では、私の専門分野である健康管理学や健康運動心理学の観点を活かした授業を行っています。また研究室としては、健康の維持・増進を図り、社会環境と良好な関係を構築する上で必要な知識・スキルの習得や、運動実践による心理的効果などに関する調査研究及び教育を行っています。

私は、本学全体での身体運動科学の通年175本の授業運営に加え、体育関連の用具・施設の管理、非常勤講師のコーディネート、体育会部活動活性化のための支援活動なども一手に担当しております。日々の授業では、運動技術の習得のみならず、体育を一つのツールとして、学生が自信やライフスキルを身に付けられるような実践を行っています。大学における体育授業は、身体を動かしたりすることを習慣化する最後の機会となります。授業の内容や進め方を工夫することで、体力向上・技術習得はもちろん、ライフスキルの獲得やメンタルヘルス改善の効果も期待できます。特に1年次には「仲間づくり」の手段にもなり、大学生活への適応や良好な人間関係の構築のための有効なツールにもなり得ます。昨年度は、学内への貢献として、本学の学生や先生方により気持ち良く本

学の体育施設を利用して貰えるよう、施設毎に使用上の注意看板を作成いたしました。また夏のライフスポーツでは、アーチェリーやトランポリンなど新しいスポーツに挑戦しております。このような新しい取り組みを通じて本学の学生・先生方に身体運動科学の考え方を広げられたと感じています。

今後も独自の授業実践を通じて上記のような教育効果を効率よく得られるよう授業の改善に努めるとともに、自身のテニス経験を活かした部の顧問として、学生と共にスポーツを通じた本学のブランドマネジメントに貢献できれば幸いです。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。



ライフスポーツ アーチェリー授業集合写真 (2018年9月撮影)

生体機能分子分析学分野

当分野には、4月から杉山栄二助教が新たにスタッフとして加わり、轟木教授、水野講師、杉山助教の3人体制に加え、豊岡特任教授にもサポートいただきながら、学生と毎日精力的に研究を行っています。

当研究室の主な研究テーマとしては、次世代バイオ医薬品の新規分析法の開発、単一細胞メタボロミクスのための超微量成分の高感度・高精度分析法の開発、オミクス解析のための新規分析ツールの開発などを行っています。また、各種疾患の早期発見や再発予防や薬効評価を目的として、ポイントオブ検査法の開発や、唾液等を試料とした無侵襲検査法の開発等も進めています。

これらの研究を支えてくれている学生諸君は、日々切磋琢磨しながら高いモチベーションで研究を行っています。その成果は、昨年度の本学学士の成績優秀者表彰、学会での優秀発表賞受賞9件など、学生個人としても高く評価されました。勿論、研究以外にも手は抜いておらず、学内バドミントン大会、フットサル大会、そしてソフトボール大会でも毎年順調に勝ち進んでおります。

昨年度の修了・卒業生は、小野薬品工業、エーザイ、JCR

ファーマ、杏林堂への就職に加え博士課程への進学など、各々の道で活躍しています。詳しい研究内容、研究室行事、学生の活躍等は研究室HPで多くの写真とともにご覧いただけます。最後になりますが、静薬学友会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2019年5月 研究室BBQ 安倍川河川敷にて

医薬品製造化学分野

日頃より、静薬学友会の皆様の絶大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

教員の出入りが激しい薬造ゆえ稲井誠講師と二人だけの時期も半年ほどありました。しかし、平成29年1月に卒業生の大内仁志助教が戻り5月には吉村文彦教授が赴任して、現在は4人体制に戻り教育研究に励んでおります。当研究室では、「何事にも全力投球」と「よく学び、よく遊ぶ」の精神をモットーに日々生活をしております。

また、研究と教育の柱となる「天然物の全合成」は広範なサイエンスの知識を必要とするため、プロジェクトの進行は学生の研究者としての成長を可能にします。現在も製薬企業を始めとする産業界から熱望されるもの作り（有機合成）のできる人材の教育を実践しております。

最近、菅が赴任してからの学生全員の実験ノートとウィークリーレポートの整理をしました。教授室の本棚に、修了年度毎に区切りを入れてノートとレポートを並べると幅80cm縦40cmの棚が7つ一杯になりました。また、簡単に実験ノートを探すことができますように、2005年からの学生の名前を壁に修了年度毎に掲示しました。映画のエンドロールを彷彿させるように横一面に118名の学生と7名の教員が修了時毎に並んでいるのは、圧巻です。懐かしい学生の名前も思い出され、人材育成が重要なミッションである大学人としての喜びも実感しています。さらに、修士を修了して入社した会社の仕事で論文博士を取得する幸運に恵まれた卒業生もいます。

これまで小竹一弥（京都薬品）、望月雅允（ペプチド研究所）、鈴木伸也（東レ）、小原伸啓（ゼリア新薬）が博士（薬学）の称号を授与されています。今後も本学では積極的に論文博士取得に協力をしていきますので、企業で研究を継続している卒業生は目標を高く見据え努力を続けてください。また、これからも薬造では学生や卒業生が元気に明るく頑張れる体制を維持して行きたいと考えていますので、よろしく願います。

また、2019年3月の修士修了者と就職先は上野宏弥（大阪合成有機化学研究所）、近江弘規（杏林製薬）、鹿子木匡貴（コニカミノルタケミカル）、鈴木彩香（スペラファーマ）です。さらに、有賀翔太（山梨大学医学部付属病院）、徳丸陽平（調剤薬局ツルハドラッグ）は6年生学生として卒業し、薬剤師として医療機関にて活躍しています。



2019年4月1日 芝生公園にてお花見

薬剤学分野

尾上誠良教授が当分野を主宰されてから6年目となり、大学院生博士課程8名、修士課程5名、学部生12名でスタートしました。本年4月より研究室名を「薬剤学分野」に戻しており、令和という新しい時代を迎えるとともに原点回帰ということ、より一層の発展を目指して研究・教育活動に邁進していく所存です。また、研究室名の変更と同時に、当分野のWebサイト (<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/yakuzai/>) を一新しており、研究室における研究・教育活動に関してタイムリーにわかりやすく報告できると考えております。当研究室における各種イベントについても随時掲載して参りますので、定期的にご覧頂けますと幸いです。

クスリを逆から読むと「リスク」(Risk) となりますが、実際に薬効と副作用は表裏一体で、どのようなクスリでも副作用は発生してしまいます。そこで私たちは投薬した後のクスリが体内でどのように動くのか詳細に把握し、そのクスリの体内での動態制御による薬効改善・副作用回避を目指して次のような研究を推進しています。

- (1) 薬物動態制御による副作用の回避、
- (2) ナノテクノロジーや物性制御を利用した薬物動態・薬効の改善、
- (3) 病態下の薬物動態変化解析とその戦略的な回避方法探索、
- (4) 薬物の物性・動態情報からの副作用リスク予測。



2019年度のメンバーです (2019年7月18日撮影)

本研究室出身者は、薬剤学に関する基礎研究から臨床研究まで視野にいた幅広い経験を活かし、医療機関、製薬・食品企業、行政機関や教育機関など様々な分野で活躍されています。今後も研究活動を通じて薬の専門家としての研究技能・知識とコミュニケーション能力を併せ持つ薬科学者を育成し、変化し続ける社会のなかでリーダーシップを発揮できる人材を輩出できるように邁進して参ります。今後とも皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

臨床薬剤学分野

臨床薬剤学研究室は、2002年度に本学で初めての臨床系講座として開設され、2005年度から賀川が主催しています。なお、学部運営上、薬局管理学を含めて活動しています。研究インフラは大学（草薙キャンパス）と静岡県立総合病院にあります。静岡県立総合病院内の研究室は、2002年に開設され、2008年に新築された循環器病センター6階に移設され、さらに2017年9月からは新築された先端医学研究棟内に再移設されました。地方自治体が設立した病院内に薬学部

の研究室を設置することは極めて珍しく、我が国におけるモデル事例とされており、内外から注目されています。教育面の実習関係では、6年制課程の病院・薬局実務実習（5年次）を他分野と分担して担当しています。講義では、早期体験学習（1年次）、医薬品安全性学（3年次）、薬学と社会（3年次）、医薬品情報学Ⅰ（3年次）、調剤学（4年次）、薬物治療学特論（大学院）等を担当しています。研究面では臨床現場での臨床薬物動態学、臨床薬理学および臨床製剤学的課題を研究テーマとして捉え、薬学的手法で解決に導く研究を行っています。すなわち、抗がん薬や抗てんかん薬等の有害事象を臨床的な課題として捉え、医師との共同研究を実施しています。また、サプリメントの体内動態にも着

目し、関節リウマチでよく摂取されているN-アセチル-D-グルコサミンの体内動態と臨床効果との関係も検討しています。臨床研究では症例数の集積に時間がかかり、数年をかけて論文1報を完成させるような根気強い研究姿勢が必要になります。当研究室の研究業績は臨床研究の成果が中心です。で、研究所属学生、大学院生および教員が一丸となって、粘り強く、かつ質の高い臨床薬学研究に取り組んでいます。これからも、当研究室は、臨床薬学研究で社会に貢献できる卒業生や修士を輩出できるように精進しています。



2019年4月 研究室集合写真

臨床薬効解析学分野

臨床薬効解析学分野では、「医療現場からシーズを見つけて研究を展開し、その成果を現場や社会に還元する」ことを目指して、教員4名、博士課程4名、修士課程1名、学部学生16名の総勢25名が基礎研究と臨床研究の橋渡し研究に取り組んでいます。

当研究室は、静岡県立総合病院先端医学研究棟5階のリサーチサポートセンターにランチ研究室を設置しており、静岡県立総合病院における診療科・薬剤部と臨床共同研究を行っています。また、静岡県立こども病院、聖隷浜松病院、東北大学、協和病院、がん研有明病院、国立がん研究センター東病院、日本大学医学部、東京医科歯科大学などの県内外の医療機関、大学、研究所と連携して、薬物治療などの臨床的な課題に対して共同で研究を行っています。

昨年は、平井啓太助教が日本薬学会東海支部学術奨励賞と第15回日本アレルギー学会学術大会賞、6年生の松本恵実さんが第56回日本癌治療学会学術集会において優秀演題賞、5年生の良知優花さんが日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2018においてベストプレゼン賞を受賞するなど、日々の研究成果を積極的に各学会において発表し、高い評価を受けています。また、本年4月より平井啓太助教が講師に昇任されま

した。

教育面では、改訂モデル・コアカリキュラムに対応した実務実習が開始され、質の高い医療人の養成を目指して、静岡県立総合病院における実務実習がより充実したものとなるよう日々取り組んでいます。

研究室の年中行事としては、本年もお花見、新入生歓迎会、バーベキュー、研究室旅行、送別会などが開催、または開催予定で、これらの行事は研究室員の連帯感の醸成につながっております。研究成果や研究室行事については、研究室ホームページ、またはFacebookに随時公開しておりますので、是非ご覧ください。



2019年4月1日 花見にて

医薬品情報解析学分野

当研究室は2005年に発足し、本年度で14年目を迎えます。その間、多くのOB・OGを輩出し、病院・薬局を始め、製薬会社の統計解析・データマネジメント部門、行政機関等で幅広く活躍しています。

当研究室のポリシーは、薬学教育の中で重要な分野である新薬の臨床開発や臨床研究に必要な臨床研究方法論、生物統計学、疫学、EBM等の教育ならびに研究を実践することです。この様な理念を掲げた研究室は薬系大学では極めて珍しく、まさに時代に先駆けたる研究室と言えます。

教育面では2010年に静岡県県立総合病院内に当研究室の分室が開設され、臨床の実務実習教育と共に、データマネジメント・統計解析機能を有する分室として、医療機関・大学連携による臨床研究の質を担保する拠点となることが期待されています。

今季の大きなイベントとして、当研究室が主催で令和元(2019)年6月8日に、本学において第4回日本臨床薬理学会東海・北陸地方会を盛況裡に開催したことを忘れることができません。この場を借りて学生諸君のご協力に、心より感謝いたします。



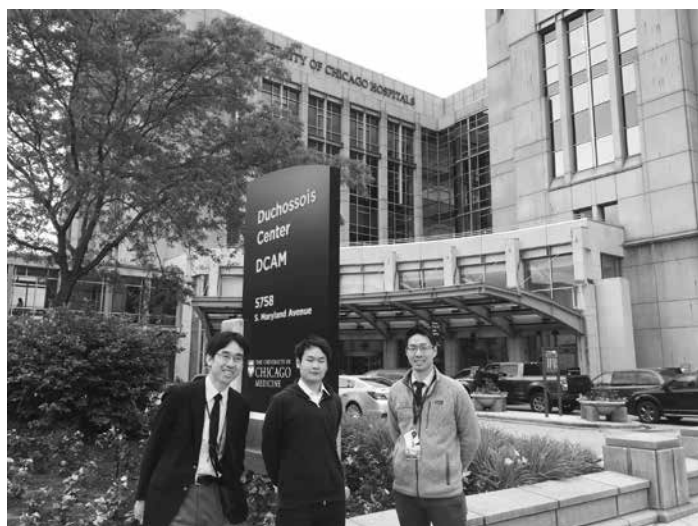
2019年3月20日 学位授与式、卒業生と学生たち

研究面においては、静岡県立総合病院ほか、多くの医療福祉機関との連携で多施設共同研究、企業との共同研究等を実施しています。特に緑茶の感染症予防や認知機能への影響に関する臨床研究はマスコミでも大きく取り上げられています。また、国立健康・栄養研究所との共同研究で健康食品の安全性評価に関する研究も継続しています。研究室の規模は小さいですが、毎年大学院生・学部生等による研究成果も着実に積み重ねられ、今後、更なる高みを目指した活動を行っていきたいと思います。今後とも皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

実践薬学分野

実践薬学分野は、その名のごとく、医療に直接還元できる研究を目指し、臨床製剤学、臨床薬物動態学の研究を行ってきました。2019年は、日本薬学会や薬剤学会等の国内学会に加え、これまで以上に国際学会での海外活動に力を注ぎました。5月にはスイスのチューリッヒで開催されたPharma Europe 2019で内田准教授、田中助教が発表を行い、6月には米国ボストンで開催されたAmerican Society of Health-System Pharmacists (ASHP) で内田准教授、柏倉講師及び学生が発表を行い、さらに米国シカゴ大学病院を訪問し、救急医療における薬剤師の活躍について見学してきました。11月には、米国サンアントニオで開催されるAmerican Association of Pharmaceutical Scientists (AAPS) で5名の学生(6年生2名、修士1年生2名、博士4年生1名)が発表する予定です。国際学会に参加した教員および学生は、研究室で報告会を開催し、全員の情報共有に務めております。さらに、本研

究室では年1回のペースで実践薬学セミナーを開催し、同窓生を中心とした講演会、勉強会、懇親会を行ってきましたが、今年は8月31日に第10回記念講演会をアソシアホテル静岡で挙行することになり、アイルランドのダブリンからヨーロッパアステラス社長の迫和博博士を招聘し特別講演をお願いしました。このようにして、今年は、国際的な見識を深める取り組みを積極的に進めて参ります。



2019年6月 シカゴ大学病院にて

医薬品化学分野

当研究室では現在、新規化学合成法の開拓を主な目標として、いろいろな研究を行っています。これらの研究を通じてこれまでに、安全・簡便な化学合成を可能とする一酸化炭素等価体の開発や、二酸化硫黄等価体を用いる新規触媒反応の開発、位置選択的反応を実現する新規触媒の開発、などを実現してきました。現在は、さらに研究を進展させることができるよう努力精進しています。

この1年の間でのうれしいニュースとしては、眞鍋が教授として赴任してきてから初めて、課程の学生を博士として輩出することができました。また、少し前から始めている脱芳香族化反応のプロジエクトが、徐々に進展しだしており、今後の発展が自分でも楽しみです。

以前より行っていた2, 3-二置換ベンゾフランの一段階合成の研究を、論文にすることができました。この研究は、2011年にある学生が興味深い副生成物を単離したことからはまっており、その後、何人かの学生が関わってきました。7年以上経つてようやく論文にまとめることができ、感慨深いものがあります。



研究室旅行で学生たちが作製した陶芸作品群

さらに、二酸化硫黄等価体を用いる触媒反応に関して、2報目の論文を出すことができました。二酸化硫黄を活用する合成反応は、まだまだ面白いことが多くありそうです。

研究以外のアクティビティーとして、昨年夏の研究室旅行では箱根・伊豆方面へ行きました。皆で陶芸体験を行ったり、そばを打ったりし、楽しい時間を過ごしました。また、毎年5月ごろには用宗海岸でバーベキューをしています。今年も卒業生が何人か参加してくれました。来年も開催したいと思っていますので、卒業生の方は是非ともご参加ください。

生命物理化学分野

今年も静薬学友会報への寄稿の季節になりました。7月下旬、梅雨は終盤でそろそろ夏到来。今年は梅雨明け後に一気に真夏となる見込みだそうです。連日の猛暑が予想されていますが、学生・教員一同、今年も厳しい猛暑を乗り切りたいと思います。さて、昨年10月からの研究室について、簡単に報告いたします。

まずは、昨年の10月1日付けで原幸大先生が助教から講師に昇任いたしました。原先生は平成26年1月に本学薬学部の助教として着任され、以来、学生の研究指導を通して、タンパク質の構造と機能の研究で活躍されています。講師に昇任され、ますますのご活躍が期待されます。11月には県大草薙キャンパスで開催された日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会において、2名の6年生が研究成果を口頭発表しました。また、3月下旬の日本薬学会第139年会においても1名の6年生が口頭発表しました。12月には7名の薬学科6年生が卒業研究の成果を発表し、全員が2月下旬の薬剤師国家試験を無事に乗り越え、社会へと羽ばたいていきました。薬務行政、病院、保険薬局、ドラッグストアなど、就職先や勤務地は様々ですが、それぞれの職場で活躍してくれると期待しています。



BBQでの集合写真（2019年4月18日、用宗海岸にて）

待っています。年度が変わり、4月には新たに5名の新4年生が研究室に配属されました。また、大学院博士前期課程の1年生も新たに研究室に加わり、新メンバーと共に研究活動を開始しました。5月には改元で平成から令和となりました。明治以降は一世一元となりましたが、かつては慶事や災害などをきっかけに、何らかの願いを込めた改元が多かったようです。令和元年、これからも和やかな雰囲気での研究が進むことを願います。

医薬品創製化学分野

私たちの研究室は今年で7年目を迎えました。最近の出来事として、川戸助教が今年の3月末をもって企業に転出されました。研究室に参画以来、新規リン触媒の開発や医薬品の効率的合成法の確立など、研究室を研究・教育の両面から大いに盛り上げてくれました。また、川戸助教の壮行会を兼ねた同門会を開催したところ、参加者が50名を超えて盛会となりました。皆さん久しぶりの再会で、当時の思い出話に大盛り上がりでした。卒業生の近況も聞けて、皆さんがそれぞれの場所で努力し、成長している姿を感じることができて嬉しい限りです。川戸博士、卒業生の皆さんの益々のご活躍を心より祈念しています。

今年の4月には、山下助教が着任されました。山下助教は名古屋大学大学院工学研究科で学位を取得したのち、2年間プリンストン大学でポスドクとして研鑽を積みました。当研究室では唯一の留学経験をもつ教員となるので、研究室に新しい風を吹き込んでくれると期待しています。また、今年度の研究室配属では女性2名を含む計5名の4年生が集まってくれました。久しぶりに女子学生が加わったことで、笑いの絶えない活気溢れる雰囲気にかさがプラスされました。江上講師と山下助教の新しい指導体制のもと、「新しい

化学の創製」と「新しい医薬分子の創製」を目指して、研究室をより一層盛りあげてくれると思っています。

また、とても嬉しいニュースとして、江上講師が平成31年度日本薬学会奨励賞を受賞しました。この賞は、薬学の将来を担うことが期待される研究者に対して贈られる大変名誉ある賞です。学生さん達も研究の成果を積極的に学会で発表し、多くの優秀賞を受賞しました。これもひとえに、教員と学生が同じ目標に向かって日々努力を重ねてきた結果だと思っています。

最後に、毎年恒例の院試壮行会の報告です。今年は2名が大学院入試に臨みますが、院試休みの勉強の成果を試験にぶつけると約束し、とても盛り上がりました。



2019年7月19日 院試壮行会 静岡パルコ屋上にて

統合生理学分野

当研究室では、「脳科学を基盤とする健康長寿」をメインテーマに掲げ、神経科学、生理学の知識を活かし、インビボ分子生理学を基盤に研究を推進しています。現在は、必須微量元素の亜鉛から見た脳の機能解析と病態解析を主軸に行っています。亜鉛イオンはシグナルファクターとして記憶の獲得・維持・想起に必要である一方で、過剰な細胞内亜鉛イオンは記憶障害の一因となります。アルツハイマー病の原因物質の一つとされるアミロイドβは、細胞外で亜鉛イオンと結合して凝集体を形成し、細胞内へ移行するため、細胞内で亜鉛イオンが過剰となります。また、活性酸素種や糖質コルチコイドも細胞外亜鉛イオンを過剰流入させ、それぞれ黒質ドパミン作動性神経変性による運動障害やストレス性記憶障害の一因となることを最近明らかにしました。アルツハイマー病、パーキンソン病等の脳疾患の予防・治療に神経細胞内亜鉛イオンの毒性制御がカギとなるとの視点から研究を進めています。疲労あるいは老化による神経内分泌系機能の乱れにも注目しています。

毎年、数名の学生が学会発表で優秀発表賞を受賞しています。昨年は博士課程後期1年の西尾隆祐さん、今春卒業した鈴木大貴さん(博士前期2年)、竹内梓紗さん(5年生)が受賞しました。西尾隆祐さんは昨年3回の受賞を

達成しました。また、鈴木美希助教は若手研究者の優秀研究発表賞を受賞しました。今年は玉野春南特任講師が日本微量元素学会の研究学術賞(浜理薬品賞)を受賞しました。国際学会での発表にも毎年積極的に参加しています。昨年11月には米国神経科学学会年会で大学院生3名が発表しました。今年8月にはインドネシアで開催される国際微量元素学会で学生5名が発表します。毎年8月第1土曜日には現役学生を交えた同窓会を開催しています。昨年も十数名の卒業生が参加し、大いに盛り上がりました。開催情報は研究室HPに毎年掲載しています。卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。



用宗海岸でBBQ (2019年5月)

免疫微生物学分野

主な研究テーマ

- ・植物での可食性IgA抗体の発現による高次機能性食品をめざした研究
- ・IgAをプラットフォームとする新規免疫排除分子の開発
- ・TRPチャネルに着目した化学物質による皮膚アジュバント機構の解明
- ・レジオネラおよびヘリコバクター・シネデイの病原機構の解明

食中毒で有名な腸管出血性大腸菌O157・H7のペロ毒素に対しては、大腸局所からの毒素侵入阻止にIgA抗体が有効かもしれません。ペロ毒素特異的分泌型IgAモノクローナル抗体を開発、野菜等に生産させ（植物抗体）、食べて効く抗体に発展させる研究を続けています。一方、それ自体では抗原性がない化学物質が、他の抗原による皮膚感作を促進する効果（アジュバント作用）の研究を行なっています。さらに、細胞内寄生細菌のレジオネラ、再発性感染症として問題となっているヘリコバクター・シネデイの病原機構についても、解明をめざしています。

植物抗体の研究では、シロイヌナズナで分泌片の生産効率の改善、およびレタスでペロ毒素特異的分泌型IgAの発現と毒素中和活性について、それぞれPlant Cell ReportsやPlantaに論文発表しました。これらのジャーナルは、



免疫微生物学分野 2018年度忘年会ボウリング大会

植物関連分野のトップ10%のジャーナル(Scopusジャーナルランク)に該当します。接触性皮膚炎関連の研究では堤正人君(日本免疫毒化学会)、望月成美さん(病薬・薬学会合同支部大会)、織井亮匡君(日本薬学会)が優秀発表賞を受賞しました。レジオネラの病原機構の研究では、中村拓哉君が日本薬学会で優秀発表賞を受賞しました。

平成30年度の卒業生は、薬学科(6年制)を卒業した、菊地祐希君が日本医科大学付属病院薬剤部、堤正人君が静岡県立総合病院薬剤部、古川哲也君が有隣厚生会富士病院薬剤部、三角孔史郎君が杏林堂薬局、望月成美さんが杏林堂薬局にそれぞれ就職しました。卒業生の皆さんのこれからの活躍を祈っています。

創薬探索センター

現代のがん治療を目的とした創薬では、新しい知識や仮説をもとにした分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が開発、実用化されています。しかし、その福音は一部のがん種に限定されており、多くの未解決セグメントを残しています。当研究室は2004年に開設されて以来、静岡県アルマバレーセンターや静岡県環境衛生科学研究所との連携のもと、新しい抗がん剤製薬企業と共同で、新しい抗がん剤シーズの探索研究を進めています。これまでに転写制御因子STAT3を標的とした新規抗がん剤候補物質の創出に成功し、欧米アジアでの特許登録を完了、現在非臨床試験に進めています。

さらに、従来の抗がん剤のようにがん細胞自体を攻撃するのではなく、生体にもともと備わる免疫細胞の力を利用する薬剤の開発を進めています。がんが高発現しているトリプトファン代謝に関わる酵素を標的としたユニークな化合物を複数発見しており、現在インシリコモデルを活用した構造最適化および細胞系や動物モデルでの詳細な解析を進めています。また、新たな抗体—薬物複合体の開発も進めています。

当研究室では腫瘍分子生物学、腫瘍免疫学について学生と共に学び理解を深めることにより、がんのアクセラレーターを狙った新薬シーズの研究開発に取り組んでいます。今なお増え続けるがん

患者さんにとつての「HOPE & HELP」を目指します。

平成30年度は、博士1名、修士1名、薬学科6年生2名が修了/卒業しました。現在彼らは製薬企業研究職(塩野義製薬)と開発職(持田製薬)、薬剤師(慶大病院、ユタカファーマシー)として活躍しています。卒業生の論文題目は以下の通りです。小跡竜也(博)「STAT3阻害作用を有するビスペンゾキノ誘導体の作用機序に関する研究」、園田祐大(修)「Foxp3阻害化合物の探索及び作用機序解析」、池田亮介(薬学科)「制御性T細胞阻害活性を有する低分子化合物の探索」、末廣直哉(薬学科)「BPMBによるがん細胞増殖抑制とSTAT3複合体形成異常」。



2018年12月19日忘年会 静岡市内にて

分子病態学分野

分子病態学分野は森本達也先生が教授に就任してから今年で11年目に入りました。今年は教員4名、研究補助員2名、大学院生10名（うち博士課程3名）、学部生12名の総勢28名で研究会に学会発表、地域でのイベント、そして飲み会、と慌ただしく過ごしています。

当研究室では心血管疾患の創薬を目指し「心不全発症に関わる心筋細胞内シグナル伝達機構の解析」をテーマに研究を行っています。最近の学会発表では、博士2年の清水果奈さん、清水聡史さんが第139回日本薬学会年会で学生優秀発表賞を、留学生のNurmiia Sariyünが第83回日本循環器学会学術集会で国際留学生YIA Second Prizeや、修士2年の清水圭貴君が第四回J-ISCPR年次学術集会で優秀抄録賞を、第19回日本抗加齢医学会総会では砂川陽一先生が研究奨励賞を、それぞれ受賞しています。

昨年は研究以外にも、地域との交流の機会に恵まれた年でした。9月には静岡市との事業で葵区役所、地域福祉共生センター「みなくる」、静岡伊勢丹7階に新設された「ウエルネスパーク静岡」で地域住民の方を対象に血圧測定やお薬相談会などの健康イベントを行いました。また静岡県薬剤師会と協力し、モバイルファーマシー（薬局機能を搭載した車両）を菊川市の地域イベントで展示・説明会を行いました。

さらに川根本町・川根高校と共同で川根本町・徳山地区防災訓練も実施しており、静岡市内に限らず県内各地で多くの方々と関わる事ができました。

これからの一年は学会の年であり、今年9月には第21回応用薬理シンポジウム、10月に第3回ノビレチン研究会、来年5月には第15回日本禁煙科学会総会の3学会が森本先生会長で開催されます（この記事が掲載され発行される時には今年9月の第21回応用薬理シンポジウムが無事終了しているはず……）。学会の開催はこれまでに経験がないためスタッフ一同、力を合わせて進めています。無事終了できることを願いつつ、研究も頑張つて進めていければと思います。



2019年7月6日 第65回日本薬学会東海支部大会にて

生体情報分子解析学分野

生体情報分子解析学分野は、黒川光子教授の着任後、今年で3年目を迎えました。

本年度は5月から年号が「令和」に代わり、「個別化医療に貢献する基盤研究を」をキャッチフレーズに、研究室一同、新たな気分で教育・研究活動に励んでおります。

令和元年度は、5名の薬学科4年生が配属され、学生18名、黒川教授、坂本准教授、山崎講師、山口助教、秘書・山崎の総勢23名のチームです。当分野では、薬物療法の対象となる生体の生理学的特性に応じた医薬品の作用特性を分子レベルで解析することにより、医薬品の適正使用に必要な生体情報の理解を目指しています。具体的には、心血管病性差の分子メカニズム、ヒトiPS由来心筋を用いた非臨床安全性評価系の構築、骨格筋における性差発現メカニズム、コレステロール胆石症における発症性差の解明、脂肪幹細胞の維持機構をテーマに行っています。これらの研究を支えてくれている学生諸君と研究に対して日々活発な議論を交わしており、その成果は様々な学会で発揮されています。最近1年間を振り返ってみますと、昨年11月のThe 4th ICPPFでは酒徳航平君がPoster Presentation Awardや、同じく昨年11月の日本薬剤師会東海ブロック学術大会・日本薬学会東海支部合同

学術大会で杉本真太郎君がベストプレゼンテーション賞、今年3月の第92回日本薬理学会年会では岩崎菜々美さんが学生優秀発表賞、同じく3月の第139年会日本薬学会では奥野理菜さんが優秀発表賞、7月の第65回日本薬学会東海支部総会・大会では桑原泰斗君が学生優秀発表賞を受賞しました。

今年の研究室旅行は、5月に新緑溢れる奥大井に行きました（写真）。マス・ヤマメ釣りやバーベキューを通して、新メンバーがスムーズに研究室に溶け込めたと思います。今後も一丸となって、ますます研究室を盛り上げていきますので、皆様からのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



2019年5月25日 研究室旅行のマス・ヤマメ釣りにて

創剤科学分野

昨年の四月より近藤が創剤科学分野を主宰しております。本年度は、教員3名、大学院生博士課程3名、博士前期課程8名、学部生11名の計25名で研究活動をスタートしました。本研究室の特徴である経口固形製剤化技術開発、粉体工学研究に加え、新しいモダリティをヒトに投与可能にする製剤・D S技術の研究開発を展開しています。テラーメード製剤、小児用製剤への応用を目指し、新規な薬物放出制御技術、ナノテクノロジーを駆使した技術の開発に取り組んでいます。

今回、皆様にご報告しなければならぬ最大のトピックは、これまで当研究室で研究・教育活動に精力的に従事いただきました木村晋一郎助教が6月末をもって、岩尾康範教授が8月末をもって本学を去ることになった、ということことです。お二人とも本学では研究・教育活動で輝かしい実績を残してくれました。先生方のご指導を受けた卒業生は薬学の様々な領域で活躍してくれています。これまでの貢献に深く感謝いたします。一方、大学は若い教員にとって将来のキャリアを形成するための場

あり、自己実現のための礎を築く場であると捉えております。年度の途中と変則的ではありますが、自己実現に向けて一步を踏み出したお二人の先生にエールを送りたいと思います。新天地でのご活躍を祈念いたします。



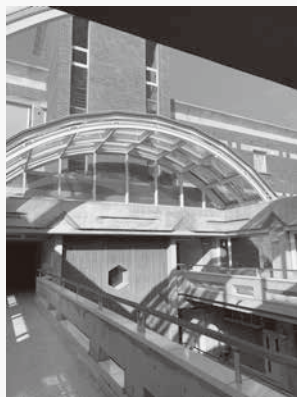
2019年6月21日
木村晋一郎助教の送別会にて

昨年度も何名かの学生が学会で最優秀発表者賞等を受賞し、研究レベルの高さをアピールしてくれています。これまで諸先輩方が時間をかけ、知恵を絞り積み上げてくれた製剤学に関する経験と知識の延長線上にこれらの賞があります。これから創剤科学分野は新たな体制の下で研究活動を進めて参りますが、従来の研究を發展させるとともに、新たな色もお見せできるように努力致します。研究室の活動を通して、薬を創る(研究者)および薬を扱う(薬剤師)役割を担う人材を育成して参ります。引き続き、ご指導のほど宜しくお願いします。

キャンパス風景



ユニバーシティプラザのいちょう並木



薬学部棟



薬学部棟と芝生園地



講義室



薬学部棟4階より

科学英語分野

准教授 ホーク フィリップ (Philip Hawke)

As both the world of science and Japanese society are becoming more and more internationalized, English is increasingly needed both by Japanese pharmaceutical scientists to communicate their research to foreign colleagues, and by Japanese pharmacists to speak to foreign patients and customers. These trends were recognized by the University of Shizuoka in 2007 when it established the Scientific English Program to train science graduate students as part of the Global COE Program. The Program was integrated into the School of Pharmaceutical Sciences as the 科学英語分野 in 2012, when it began providing courses to undergraduate students as well. The Program is taught by me, Philip Hawke, a Canadian who has taught at the University of Shizuoka since 1998.

The Program teaches graduate students the practical English skills that they need to successfully communicate about their research. It offers courses in **Academic Presentations, Academic Writing, Scientific Manuscript Editing, Oral Communication, Small Group Discussion, and Independent Listening**. After taking the Program's courses, many students have presented their work at international conferences and published it in international journals, and some have worked abroad as post-doctoral fellows or now work for international drug companies.

The Program teaches undergraduate students more basic English skills related to science. The **Pharmaceutical Science English** course introduces third-year students to the English that they will need after entering laboratories in their fourth year, such reading scientific journal articles. Students also develop practical English for communicating with foreign patients and customers in hospitals and drug stores. In the English section of the **Scientific Practice I** course, first-year students have debates on scientific topics. In 2017, a new course called **Research Presentations in English** was introduced. The course gives 5th- and 6th-year students the opportunity to practice presenting their graduation research projects in English.

In recent years, an increasing number of foreign graduate students have been enrolling in the School, motivating faculty members to improve their own English skills. To help them do so, the Program offers weekly English Lunches for Science Faculty Members at a variety of skill levels. The Scientific English Program aims to help both students and faculty members to develop the English skills that they need to succeed as scientific research and Japanese society become increasingly internationalized.



Discussing research in Small Group Discussion class.

科学の発展や日本社会の国際化に伴って、日本の薬学研究者や薬剤師が外国人の研究者、患者、来店客と英語でコミュニケーションをとる必要性が増えています。こうした傾向を背景に、静岡県立大学で2007年にグローバルCOEプログラムの一環として科学系大学院生のためのScientific English Programが設立され、授業が行われてきました。2012年からは、このプログラムが薬学部の「科学英語分野」として統合され、同時に学部生に対しても授業が行われるようになりました。1998年より「科学英語分野」は私、カナダ出身のホークフィリップが担当しております。

大学院生を対象としたプログラムでは、研究について円滑なコミュニケーションを図ることを目的として、大学院生を対象に英語の実用的なスキルを磨くための授業を行っています。このコースではアカデミックプレゼンテーション、アカデミックライティング、科学原稿、オーラルコミュニケーション、スモールグループディスカッション、また自主的に行うリスニングなどのコースを提供しています。プログラム受講後は多くの学生が、国際会議での発表、国際学術雑誌への論文掲載、またポストドクターの一員として海外の大学で研究を行ったり、国際的な製薬会社に勤務するなど、多彩な経験を積んでいます。

学部生を対象としたプログラムでは、科学に関連した基礎的な英語を学ぶことができます。Pharmaceutical Science Englishでは学部3年生に対して、4年生になり研究室に配属されたのちに必要となる、科学に関連した英文記事を読むためのスキルを身につけるコースを用意しています。さらに学生は、病院や薬局で外国人の患者とのコミュニケーションを図るための実用的な英語を身につけます。Scientific Practice Iコースでは1年生が科学のトピックについて英語で討論を行っています。2017年にはResearch Presentations in Englishという新しいコースが設置され、5年生、6年生が卒業研究発表を英語で行う練習を行っています。

近年、海外から多くの大学院生が入学するようになり、教職員の英語スキルについても向上させる必要があります。その一助として、週に一度さまざまな英語レベルの科学系教職員が参加できるイングリッシュランチの機会を提供しています。科学英語プログラムは、学生、教職員双方が研究を成功させるため、また今後ますます国際化が進む日本で必要とされる英語のスキルを高めるための手助けをすることを目指しています。

薬学部教室名および教員一覧 (カッコ内は大学院薬学研究院)

薬学科			臨床薬学大講座			
生体機能薬学大講座			臨床薬剤学分野 (臨床薬剤学講座)	教授	賀川 義之	
生化学分野 (生化学講座)	教授	鈴木 隆		准教授	宮崎 靖則	
	准教授	高橋 忠伸		講師	大澤 隆志	
	講師	南 彰		講師	内野 智信	
衛生分子毒性学分野 (衛生分子毒性学講座)	教授	吉成 浩一	臨床薬効解析学分野 (臨床薬効解析学講座)	教授	伊藤 邦彦	
	講師	佐々木 崇光		准教授	井上 和幸	
	助教	保坂 卓臣		講師	辻 大樹	
	助教	志津 怜太	講師	平井 啓太		
薬理学分野 (薬理学講座)	教授(学府長・研究院長)	石川 智久	医薬品情報解析学分野 (医薬品情報解析学講座)	教授	山田 浩	
	准教授	木村 俊秀	実践薬学分野 (実践薬学講座)	助教	古島 大資	
	講師	金子 雪子		教授	並木 徳之	
	助教	山口 桃生		准教授	内田 信也	
医薬生命化学分野 (医薬生命化学講座)	教授	浅井 知浩	実践薬学(実践薬学講座)	講師	柏倉 康治	
	講師	小出 裕之		助教	田中 紫茉莉	
	講師	米澤 正		助教	谷澤 康玄	
身体運動科学分野	准教授	窪田 辰政	薬科学科			
科学英語分野	准教授	ホーク フィリップ (Philip HAWKE)	創薬科学大講座			
			医薬品化学分野 (薬化学講座)	教授(学部長)	眞鍋 敬	
				講師	岩本 憲人	
				講師	小西 英之	
分子薬学大講座	教授	轟木 堅一郎	助教	山口 深雪		
				生命物理化学分野 (生命物理化学講座)	教授	橋本 博
					准教授	石川 吉伸
					講師	原 幸大
医薬品製造化学分野 (医薬品製造化学講座)	教授	菅 敏幸	助教	菱木 麻美		
	准教授	吉村 文彦		医薬品創製化学分野 (医薬品創製化学講座)	教授	濱島 義隆
	講師	稲井 誠			講師	江上 寛通
	助教	大内 仁志	助教	山下 賢二		
生薬学分野 (生薬学講座)	教授	渡辺 賢二	生命薬科学大講座			
	講師	恒松 雄太	統合生理学分野 (統合生理学講座)	教授	武田 厚司	
	講師	佐藤 道大		講師	井口 和明	
医療薬学大講座				助教	鈴木 美希	
薬剤学分野 (薬剤学講座)	教授	尾上 誠良	免疫微生物学分野 (免疫微生物学講座)	教授(副学長)	今井 康之	
	講師	世戸 孝樹		講師	三宅 正紀	
	講師	佐藤 秀行		講師	黒羽子 孝太	
創剤科学分野(創剤工学講座)	教授	近藤 啓	助教	中西 勝宏		
分子病態学分野 (分子病態学講座)	教授	森本 達也	大学院付属施設			
	講師	刀坂 泰史	創薬探索センター	教授	浅井 章良	
	助教	砂川 陽一		准教授	澤田 潤一	
	助教	宮崎 雄輔		講師	小郷 尚久	
生体情報分子解析学分野 (生体情報分子解析学講座)	教授	黒川 洵子	薬食研究推進センター	センター長・特任教授	山田 静雄	
	准教授	坂本 多穂		講師	伊藤 由彦	
	講師	山崎 泰広				
	助教	山口 賢彦				

最終講義のご案内

今井康之教授（免疫微生物学分野）

静岡県立大学薬学部 教授 今井康之先生は令和2年3月末をもちまして、御定年退職の節目を迎えられることになりました。つきましては、下記のように最終講義を行いますので、ご案内申し上げます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

詳細は、静岡県立大学薬学部ホームページ (<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/>)にてお知らせいたします。

◆最終講義

日 時 令和2年2月29日（土）
午後3時より 今井康之先生 最終講義
場 所 静岡県立大学看護学部棟4階13411講義室

◆パーティー

午後5時より
静岡県立大学学生ホールにて

お問い合わせ 静岡県立大学薬学部
免疫微生物学分野 三宅正紀
TEL 054 - 264 - 5711
Eメール miyakem@u-shizuoka-ken.ac.jp

静薬学友会学生代議員・コラボレーターの活動

☆薬学部新入生オリエンテーションイベント☆



2019年4月8日、はばたき棟地下食堂にて、薬学部新入生を歓迎するオリエンテーションイベントを行いました。

新入生の薬学部内で親睦を深めるイベントはこれまでなく、この度、学友会コラボレーターが計画し、薬学部生が所属する各部活動の学生とともに実施しました。

学友会にちなんだイベントということで新入生は出身地域によってグループを形成して自己紹介をしたり、グループ対抗のレクリエーションをしたりし、親睦を深めました。また、薬学科4年生の柴田尚輝くんによる学生生活の送り方のアドバイス、学友会の活動の紹介なども行い、楽しみつつこれからの役に立つようなイベントとなりました。

今回のイベントを踏まえて、学友会に興味を持ってくれた1年生もいましたので、今回の新入生もこれから学生主体の活動を担っていかれると思います。

☆静薬学友会 卒業生進路相談会☆



2018年10月27日、静薬学友会と学生との初のコラボレーション企画として、静薬OB、OGが学生の就職相談に乗る「静薬学友会 卒業生進路相談会」が、静岡県立大学祭「剣祭」に合わせて開催されました。この催しは学生が企画し、これに静薬学友会が応える形で実現したものです。

剣祭の企画の一つとして行われたこともあり当日は多数の学生が会場を訪れ、終始和やかな雰囲気の中、静薬OB、OGが就職活動についてのアドバイスや就職後の職場の様子などを、学生の質問に合わせて丁寧に応えていきました。

企画・運営に尽力された学生の皆様、本当にお疲れさまでした。また、ご協力をいただいた静薬OB、OGの皆様に感謝申し上げます。

薬学部平成30年度成績優秀者賞・岩崎賞受賞

薬学科 成績優秀者賞



六年間の大学生活を振り返って

ウエルシア薬局株式会社 佐藤 実季

(薬学科 実践薬学分野)

この度は、成績優秀者賞という大変素晴らしい賞を頂けたことを、とても嬉しく思います。このような荣誉ある賞を頂けたのは、熱心にご指導くださった諸先生方、共に高め合ってきた友人、そして私を支えてくれた家族のおかげであり、誠に感謝しております。

この6年間の大学生活は、苦勞もありましたが、多くのことを学び身につけることができました。私は、小学生の頃から薬剤師になりたいという夢を持ち、その夢に向かって勉学に励んでまいりました。無事に第一志望であったこの大学に入学できましたが、大学入学後、初めてのテスト勉強が大変であったことを覚えています。薬学部に入ったからには薬のことを学べると思っておりますが、まずは基礎から学ぶので覚えることも多く、夜遅くまで講義資料を見ながら勉強していました。時には友人と図書館で勉強しながら、わからないことを教え合いました。また、薬剤師として現場で働くこと

を希望していた私にとって、薬局・病院での実務実習はとても有意義なものとなりました。卒業後、どのような薬剤師になりたいか、薬剤師としてどのように患者様と関わっていきたいか考え、私は薬局薬剤師になりたいと思うようになりました。さらに、医療用医薬品だけでなく一般用医薬品についての知識も身につけ、患者様だけでなくお客様の相談にも対応できる薬剤師として働きたいと考えるようになりました。

今、薬局薬剤師として働いている中で、大学で学んだ知識や経験が活かせる場面が数多くあります。まだ経験も浅くわからないことももちろんあります。先輩や、時には患者様から様々なことを学んでおります。薬剤師としてさらに成長できるよう、また自らがなりたいと思っている薬剤師像に近づけるようこれからも努力していきたいと思っております。

薬学科 岩崎賞

*薬学部学位記伝達式にて優秀な成績を修めた学生にそれぞれ「成績優秀者賞」「岩崎賞」が贈られ、静薬学友会からは副賞として記念品を贈呈しました。



ご支援いただいた全ての方々へのお礼と近況報告

旭化成株式会社 清水 晃介

(薬学科 医薬生命化学分野)

この度、私の6年間の努力を認めていただき、荣誉ある賞を賜うることができたこと、非常に光栄に思います。学部一年次から有機化学の研究の勉強に参加させていただいたことをはじめ、年間三千ページ以上専門書を読み込んだことなど、やりたいことをやりたいだけ取り組める環境と素晴らしい仲間や先生方に恵まれ幸運でした。ご支援いただいた全ての方々はこの場を借りて感謝申し上げます。

この春、私は旭化成株式会社に技術系総合職として入社し、添加剤事業部に配属されました。当事業部の製品であるセオラス（結晶セルロース）は、賦形剤として医薬品に、懸濁安定化等の目的で食品に、さらには工業用途にも用いられております。私の仕事はこの製品に関して、管理薬剤師・食品衛生管理者の補佐や、品質マネジメントシステムの維持・構築、法規対応、顧客監査対応等の業務を行うことで品質を保証することです。

結晶セルロースは薬効こそ示さないものの、5割弱の錠剤の製剤化に用いられており、かつ弊社のセオラスはほぼ100%の国内シェアを占めるため、日本の医療を支える上で品質の維持および管理が非常に重要です。それゆえに日々プレッシャーを感じる一方、億人以上の方々とは見えない糸で繋がっているということに非常にやりがいを感じます。

また、セオラスは医薬品添加剤であると同時に食品添加物でもあるため、複数のマネジメントシステムや、国内外の多数の法規等、多岐にわたる知識が要求されます。新たな知識が増えることに楽しさを感じつつも、力不足を痛感しながら業務を行っております。今はまだ未熟者ですが、私の強みである薬学を軸に知識の裾野をさらに広げること、同窓生の皆様とともに人々の健康と快適な暮らしに貢献できるよう精進してまいります。

薬科学科 成績優秀者賞



成績優秀者賞受賞によせて

博士前期課程1年 医薬生命化学講座 齋藤和弘

(薬科学科 医薬生命化学分野)

この度は成績優秀者賞という名誉ある賞を賜りまして、大変光栄に存じます。受賞にあたり、ご指導を賜りました先生方をはじめとして、多くのご支援をいただきました研究室の皆様方この場をお借りして深く感謝申し上げます。大学に入学してからの4年間は、薬学という学問に関わっていく上で、その基礎を学ぶ充実した4年間となりました。大学生活では、その生活サイクルは個人に一任されます。大学受験を乗り越えた、入学したての頃というのは、その自由に身を甘んじてしまうこともありましたが、

様々な授業を受講し、学年を重ねていく中で、薬学という学問の幅広さを知りました。また、より深く専門科目を学んでいく内に、薬学に携わって生きていくためには、その基礎となる学問をしっかりと修め、薬学を究めていくための基盤を作り上げることが必要で

あることを痛感しました。このことをモチベーションとして日々学業に努めていた身といたしまして、今回の賞をいただきましたことは大きな自信となりました。

私は現在、大学院にて研究をさせていただきます。私には現在、大学院にて研究をさせていただきます。温故知新という言葉がありますが、研究においても、新しいことを見出していくためには、これまでのことを知らなければなりません。そのため、故きを温ねる場面で、学部で培ってきた知識や考え方を活用するとともに、新しきを知る場面で既存の考え方の鑄型を応用できるような柔軟な思考をもって研究できるように心がけたいです。私はこのことを常に念頭に置き、基礎を怠ることなく自分の考えをしっかりと発信できるような人材となれるよう、今後もしっかりと努力していく所存です。

薬科学科 岩崎賞



大学院にて

博士前期課程1年 薬剤学講座 牧野圭祐

(薬科学科 薬物動態学分野/現薬剤学分野)

この度は、岩崎賞という名誉ある賞を頂けたことを大変うれしく、光栄に思っております。正直なところ、これといった顕著な成績を修めることができただけでもないので、まさか自分が受賞者に選ばれるとは思っていませんでした。本受賞の吉報を耳にし、非常に驚くと同時にこの受賞に値するよう頑張っているかと改めて気持ちを引き締めて参ります。

現在、静岡県立大学を卒業後、同大学院薬食生命科学総合学府薬科学科に進学し、学部時代より所属していた薬剤学教室にて日夜研究に励んでおります。研究室での日常は非常にハードですが、先生方や先輩方からのご指導や刺激を与えてくれる同期や後輩から学ぶことは多く、自身の成長を実感できるととても充実した日々を送っております。まだまだ知識・経験不足故に研究を行うにあたり成功ばかりでなく、失

敗も多く、数多くの困難な問題に直面することもありますが一つずつ着実に乗り越えてゆき、その経験を自分の糧にできたらと思っております。今後は私の夢である社会に貢献できる製剤開発の研究者となるよう国内だけでなく国際学会への参加や論文執筆を積極的に行い、自身の研究成果を発表する機会を増やし、他分野に関する幅広い知識の獲得をすることで自身の研究の幅を広げていきたいと考えております。

大学生活で岩崎賞を頂けたことは私の誇りです。今回の受賞を励みとし、今後の大学院生活、またその先の社会でも活躍していけるよう一分一秒を無駄にすることなく日々励んでいきたいと考えております。最後に、本受賞にあたりこれまでご指導くださった先生方をはじめ協力してくれた家族や友人達、また後援会の方々へ心より感謝申し上げます。

在学生だより

学びを得る日々

今期の代議員を務めさせて頂きます。宜しく願います。

先日、サークルの活動で子供向けに行われるキャンプのボランティアに参加しました。

食後に薬を飲む子供が多かったのですが、「薬を嫌々飲んでる子供」が多かったことに気づきました。

粉はつかえるから嫌、錠剤は数が多いと面倒…など、みんな沢山の意見を持っていました。

自分とは違う年齢層や心理状況だと、薬に関する認識も変わったりするのかな、と思いつつ、ただ授業で薬学を学ぶのみならず、自分から様々なことを身に付けなければならぬと気づくきっかけになりました。

先日参加させて頂いた学友会総会や薬学概論の授業を通じて、薬学部が担うべき役割や、社会に出た先輩方がどのように働いていらっしゃるのかなどを学びました。このことも、自分が今後身につけたいことの方針を決める一助となる貴重な経験となりました。学友会を通じて、もっと沢山の先輩方と

田中夏暉

(薬学部1年 静薬学友会代議員)

話し、多分野からの刺激を得たいです。前身の大学を含めて、県立大の薬学部には長い歴史が詰まっていることを、このような生活を通じて感じ取っています。先輩方が造り上げている礎を大事にして、日々の学びを大切に、濃密な数年間を過ごしていきます。

この大学へは、皆、色んなところから、色んな思いを背負って来ています。そんな訳で、今までとはまた違った、面白い、興味深い考えや価値観を持った人がたくさん居ます。そうした人たちと話し様々な知識を得て、自分の世界を広げていくことが、今たまたま楽しく感じています。

臆することなく、いっぱい、これからもこの学校でたくさんの人と話してみたいです。



草薙神社 弓道場にて

病院薬剤師が存続するためには



中原実玖

(薬学部2年 静薬学友会コラボレーター)

今、私は薬剤師の国家資格を取る事を目標にしている。また進路としては、病院薬剤師を志している。しかしその目標のためだけに、今を過ごすのは非常に危険なことであると考える。

現在、人間の仕事のAI代替が進む中、医療職は人対人の仕事であるから早々仕事は奪われないという声も聞かれます。果たして本当にそうなのだろうか。病院薬剤師の主な業務として調剤、服薬指導、薬歴管理がある。調剤や薬歴管理はすぐにAIに取って代わられるだろう。薬剤師の活躍の場として服薬指導があるが、これには高いコミュニケーション能力や観察力が要求される。

具体的には、薬の使用法や効能を分かりやすく伝える他、患者さんの生活の状況や薬を服用出来ているのかなどが気づきが必要になる。しかし大学のカリキュラムのみでこれらの能力を鍛えられるだろうか。

話は変わるが、私は個人的な趣味としてアートが好きである。アートのトになりたいたとさえ考えたことがある。

アーティストはほぼAIに代替されることは不可能だろう。彼らは自分の想像を全面に売り出しており、想像力という点においてはAIに勝っているからだ。想像力を生むために、彼らは時間をかけて物事を観察し、疑問を持つという癖がある。また、他人が出しアイデアを受け入れ、より良くしていくとする共感する力も持っている。これらの能力は病院薬剤師にとっても必要なものである。

最近、AI同士で自己学習し会話できたというニュースを聞いた。私は服薬指導もAIが行えるようになってしまうのではないかと危機感を抱いた。

私達はAIに仕事を取られないように、観察力とコミュニケーションをする上で必要な共感する力を身につけなければならぬ。今回は一例としてアートをあげたが、それ以外のものであってもよく観察し、人と意見を交わし、共感する、そのような機会をより多く持つことが病院薬剤師の存続に必要ではないだろうか。

部活動を通して

(薬学部2年 平成30年度東海学生卓球秋季リーグ戦優勝)

藪内 雅人

五臓六腑を通じて

(薬学部4年 静薬学友会「クラブレーター」)

柴田 尚輝

私が所属する卓球部は、月、水、金、土、日、の週に5回、体育館の2階で練習しています。長年卓球をやっている人も、大学生になって初めて卓球をやっている人も混ざり合って日々切磋琢磨しています。今年の四月から新入生が入部したことにより、部員数が増え、普段の練習をより濃く楽しいものにする事ができています。部長である僕が忙しくて部活に参加できない時には、部活に来ている誰かが指示を出して部として活動できる、そんなチームワークも静岡県立大学卓球部の良さであると私は感じています。

卓球部は市大会のみならず県外の大会にも積極的に参加し良い結果を残しています。個人戦では12月に行われた市大会で、優勝者と準優勝者を出すことができました。団体戦では春に行われた東海リーグで4部優勝することができ、年間を通して行われる清水リーグで、昨年3部で全勝することができたため今年は2部に昇格することができました。



卓球部の仲間と。後列一番左が本人

にも参加できるようになりました。8月に大阪・京都で行われた関西薬学部卓球大会ではダブルスで準優勝、3月に金沢で行われた西日本医歯薬卓球大会では個人戦でシードを獲得することができ、とても良い経験となりました。加えて、薬学系の大会に参加することにより、他大学の薬学部生と交流でき、単なる「卓球の大会」以上の価値を得ることができています。

卓球は年間を通して大会数が多いです。大会が終わると部員全員が次は更なる上を目指したいと感じています。1つ1つの大会で結果を残せるように日々の練習に取り組んでいきます。

僕は「ジャグリング部 五臓六腑」に所属しています。静岡で毎年大道芸ワールドカップが行われるせいか、現在では創部9年目にして部員は70名以上いるかなり大きな部活となっています。静岡で活躍するプロの大道芸人の方々との交流も深く、全国大会でも好成績を残すなどレベルも高いですが、部員のほとんどが初心者スタートなので和気藹々とした雰囲気練習ができる最高の部活です。外部からの依頼も多く、五臓六腑の名の由来は「お客さまの五臓六腑に染み渡る演技ができるように」と聞いています。



パフォーマンス中

五臓六腑に所属している部員のほとんどがそうだと思いますが、まさか大学で自分がジャグリングをするとは考えてもいませんでした。僕の場合は「真面目な俺でも一発芸くらいできた方がいいかな」程度の動機です。しかし、今ではこの出会いがあって本当によかったなと思います。先輩方に勧められる形で見学に行くと、そこには優しさと熱意を兼ね備えたパフォーマンス者たちがいました。僕はその先輩方から

3年間の部活の中で、かわいい笑顔の作り方や後輩の褒め方、手足を長く見せる方法からウザくないキメ顔のタイミングまで様々なことを学びました。すべて社会で役立つと確信しています。僕は3年時にこの部活の副代表を務め、剣祭を最後に1つ下の世代に舵を譲りました。現在はその後輩たちが剣祭に向けて突き進んでいる頃でしょう。そこには甲子園球児にも負けないドラマがあります。夏の暑い時期の練習は大変だとは思いますが、毎年来る最後のパフォーマンスが大成功することを陰ながら応援しています。

挑戦する日々

(薬学部6年 国際学会—SCN30 &—COOB10 (アテネ)での発表で受賞)

前田直哉

自分は、大学から陸上競技を始めました。中学・高校と水球部であった自分にとっては一つの挑戦でした。陸上初心者の方に対して、一から指導してくださった先輩方には感謝しかありません。また、同級生にも恵まれ陸上の魅力に取りつかれるまでに時間はかかりませんでした。

陸上部ではトラック競技だけでなく、マラソンや駅伝などさまざまな大会に挑戦しました。その中でも、2年生の時に参加した12時間リレーマラソンが強烈な思い出として自分の中に残っています。4人1チームで参加したこの大会は、最初に考えていたよりも非常に過酷なものでした。3時間で既にみんなが疲労困憊であった時には、最後まで走り続けることは無理だと思いましたが。しかしながら、最後まで響き切った時には感じたことのない達成感とそれぞれが持つ陸上部としてのプライドを感じました。そして、自分はこの大会をきっかけとして、挑戦することの面白さを知りました。2年後には平塚での24時間リレーマラソンに参加し2位という結果を収め、今年には富士登山駅伝競走に参加して完走することができました。いずれの大会も非常

に過酷なものでした。しかし、一人ではなく次に響き待つ仲間がいたから、自分の実力を超えて走りぬくことができました。

しかしながら、挑戦したいことは尽きません。秋には、100kmのウルトラマラソンに挑戦します。また、陸上競技に限らず、現在研究している「渦鞭毛藻」という微生物は、まだまだ知れないことばかりで、少しでも新たな知見が得られるよう努力していきます。

残り僅かな大学生活、悔いのないように今できる挑戦を精一杯やり抜きます。



24時間リレーマラソンにて後列、左から2番目が本人

草薙の街を飲み歩いて

(博士後期課程2年 分子病態学分野)

清水聡史

私は現在博士後期課程の2年目で静岡県立大学に入学してはや8年が経っています。以前の号の方達は、在学生だよりで真面目なことを書かれており、少しでも良いと思い、お酒を飲むようになってからの7年間、草薙で飲み歩いてきた話をさせていたきたいと思います。

草薙には昔ながらの「ワンコップ」
「たくちゃん」をはじめ最近では「空」
「マサヒロ」など新しいお店もできています。私が初めて一人で飲みに行ったのは、今は無き「やきとん酒場勇将」へよく行っていきます。そこではよくカウンターに座り、隣の見知らぬ人や常連さんと話をしていきます。薬学とは違う分野の年上の方ですので、話をすることが多いです。薬学部では閉塞になりがちですし、研究者として続けるならばコミュニケーションは非常に小さくなってしまうのです。ですのでこの様に様々な人との会話というのは自分の幅を広げてくれ、自分の成長へとつながります。また、相手は知らぬ人なのでどんな人なのか探りながら話をしていきます

す。中には嫌な人と当たるときもありませんが、社会に出れば嫌な人などたくさんいますので逆に良い機会です。飲んでばかりは良くないですがこの様に飲み歩くのも社会勉強になります。メリハリをつけて飲む時は飲む、勉強・研究をする時はそちらに全力投球でこれからもやっていき、静岡県立大学薬学部出身者として「あいつは一味違うな」と思われるような立派な研究者と成長していきたいと思っています。



いつもお世話になっている大将とともに

日本薬学会第139年会での発表で受賞)

大学院学位論文（平成30年度）

■大学院薬食生命科学総合学府 博士課程 薬科学専攻 秋

氏名	所属研究室	論文題目（和文）
坂井 敏郎	創剤工学	非晶質固体分散体技術を用いた難水溶性化合物FK555を含有する錠剤の開発に関する研究
石井 英俊	臨床薬効解析学	Augmented renal clearance発現患者におけるバンコマイシン投与法の最適化に関する研究
片山 剛	実践薬学	アムロジピン口腔内崩壊錠における味マスキング効果評価法の開発

■大学院薬食生命科学総合学府 博士課程 薬食生命科学専攻 秋

氏名	所属研究室	論文題目（和文）
加藤 大介	生化学	シアリダーゼ蛍光イメージング剤を利用した薬剤耐性インフルエンザウイルスの検出方法
池内 里美	医薬生命化学	ガバペンチンエナカルビル徐放性製剤のヒト経口吸収性予測に関する研究
豊田 敬康	医薬生命化学	実験計画法を用いたナノ粒子製剤製造における重要工程パラメータの解明

■大学院薬食生命科学総合学府 博士課程 薬科学専攻

氏名	所属研究室	論文題目（和文）
田中 寛康	薬化学	二酸化硫黄等価体を用いるスルホニル基およびスルフィニル基含有化合物合成法の開発
高山 卓大	生体機能分子分析学	キラルメタボロミクスに資する高精度、高感度分析法の開発とアルツハイマー病バイオマーカー探索への応用
仁平 開人	衛生分子毒性学	ヒト肝細胞キメラマウスを用いた抗体医薬品の肝毒性に関する研究：TRAIL-R2アゴニスト抗体によるヒト肝細胞傷害作用
貝原 正憲	創剤工学	タクロリムス含有マイクロスフェア製剤の <i>in vitro</i> 薬物溶出性と <i>in vivo</i> 薬物放出性との相関に関する新規評価法の研究
小跡 竜也	創薬探索センター	STAT3阻害作用を有するビスベンゾキノン誘導体の作用機序に関する研究
石川 元章	臨床薬剤学	外来化学療法時のパクリタキセルによる好中球減少予測因子の薬物動態学的探索

■大学院薬食生命科学総合学府 博士課程 薬食生命科学専攻

氏名	所属研究室	論文題目（和文）
宋 復燃	医薬生命化学	新規脂質ナノ粒子を用いた全身投与型siRNA送達システムの開発
HALDER SHIMUL	薬物動態学	Biopharmaceutical studies on solid dispersions of carvedilol and megestrol acetate with reduced food effects on pharmacokinetics
諏訪間 崇治	生薬学	タイ薬用植物 <i>Diospyros mollis</i> (Ebenaceae) 中の熱帯風土病に対する有効成分の探索

■大学院薬食生命科学総合学府 博士課程 薬学専攻

氏名	所属研究室	論文題目（和文）
澤谷 俊明	薬理学	糖尿病治療への応用を目指した新たなインスリン分泌調節機構に関する研究
高野 秀仁	実践薬学	ココアパウダーにより苦味マスキングを施したレバミピド口腔内崩壊錠（チョコレート）の開発および服用性の評価

本部だより

一般社団法人静薬学友会第3回理事会報告

日時…平成30年10月13日(土) 15時～17時
場所…静岡県立大学 はばたき棟3階 特別会議室
出席者…理事19名

横倉輝男、大石悦子、高橋千恵子、鈴木隆、植松正吾、仲谷博明、安倍道治、岩崎年史、近藤隆、武田厚司、木下俊也、杉井邦好、秋山欣三、賀川義之、大沢勝一、渡邊学、関本征史、浅井知浩、清水広介
事務局…鈴木いずみ、鈴木敬子

欠席者…理事6名、監事2名

木苗直秀、池田雅彦、前田 徹、大木明代、内田信也、黒羽子孝太(以上理事) 若林敬二、伊藤由彦(以上監事) 順不同、敬称略

理事会への理事の出席者は25名中19名で定足数を満たすため、定款第37条により理事会として成立することを確認した。

議題…

1. 代議員・東北地区同窓会代表の交代について

岡田氏が退任し、三坂氏が就任予定である旨、横倉会長から説明があった。審議の結果、承認された。

2. 各種委員会の委員構成と役割分担について

横倉会長から資料を元に説明があった。審議の結果、承認された。

3. 近藤基金タスクフォースの検討結果と基金の運用計画について

安倍理事から説明があった。

・各界で活躍している卒業生の方を講師とする寄附講座を設置し、学生の教育に役立てる。5年間、1500万円程度で設置し、旅費・謝金、調査費、人件費などに充てる予定。学長、事務局長からは前向きなコメントをいただいた。

ている。

・来年度から開設の予定。初年度は既存カリキュラム(薬学と社会、調剤学、薬学概論など)を利用し、出来れば次年度からは単位を修得できるような講座を実施する。

・前田利男名誉教授、木下理事に寄付講座の教職員として着任いただくことを検討している。

・薬学部出身者の活動実態調査等を行う。
審議の結果、承認された。

4. 平成30年度薬学生涯研修講座について

5. リレーフォーライフ2018の報告

渡邊理事から報告があった。
・県大会場では約25チーム、1,100名の参加があり、30万円弱の寄付が集まった。

・総務委員会でリレーフォーライフを担当することになり、次年度は学友会、薬学部での参加を目指したい。

6. 静薬学友会報86号について

武田理事から説明があった。これに関連して、以下の意見が出された。
・5600部を発送しているが、1,400人弱しか会費の納入がない。会費納入者/非納入者の差別化はできないか?
・学生の声などを掲載する、学生への認知度を上げる、など未来に対する努力が必要ではないか。

これらを踏まえ、次号以降の会報について考えて行くことになった。

7. 大学祭(剣祭)での卒業生による就職相談について

コラボレータ(在学生)の3名からの提案で、大学祭(剣祭)での卒業生による就職相談を検討している旨、鈴木理事より説明があった。

・コラボレータ3名の発案でガイダンス時に学部1～3年生に対して学友会の認知度に関するアンケート調査を行った。認知度はあまり高くない。就職説明会、薬学講座には参加率も高く役立っているが、会報の価値があまり認識されていない。卒業後、参加してもいいと考えている学生も多い。
・学生は、さまざまな業種の県大卒業生と交流し、就活への支援を望んでいる。

そこで、就活説明会を行うことを発案してくれた。理事会で、参加してもらえる卒業生・職種を検討して欲しい。

- ・会員管理システムが変更となっているため、新しいID・パスワードでアクセスし、確認いただきたい。
- ・渡邊理事から、リレーフォーライフ用のチームフラッグの準備を検討いただきたいとの提案があった。

一般社団法人静薬学友会第4回理事会報告

日時…平成31年1月12日(土) 17時～18時30分

場所…中島屋グランドホテル

出席者…理事19名、監事2名

横倉輝男、木苗直秀、高橋千恵子、鈴木隆、植松正吾、仲谷博明、安倍道治、岩崎年史、木下俊也、杉井邦好、秋山欣三、賀川義之、大沢勝一、大木明代、内田信也、渡邊学、黒羽子孝太、浅井知浩、清水広介(以上理事)、若林敬二、伊藤由彦(以上監事)

事務局…鈴木いずみ、望月めぐみ

欠席者…理事6名

大石悦子、近藤隆、武田厚司、池田雅彦、前田 徹、関本征史
順不同、敬称略

理事会への理事の出席者は25名中19名で定足数を満たすため、定款第37条により理事会として成立することを確認した。

議題…

1. 静薬学友会第二回定時総会について

2. 定款の一部改訂について(審議事項)

安倍理事から下記の説明があった。

定款の第24条は総会の議事録について定めた項目だが、この内容だと議長と出席理事の全員が署名することになってしまう。そこで、定款第24条に記載の総会議事録署名人を議長及び出席理事1～2名に変更する事を提案するので審議をお願いしたい。

審議の結果、理事からの異論はなく提案の通り変更することが了承された

3. 代議員の交代について

横倉代表理事から報告があった。

東北支部の岡田さんが都合により代議員を降りられ、三坂眞元氏(平成16年薬学部卒・福島県立医科大学講師)に交代することになった。

4. 平成30年度薬学生涯研修講座の役割分担について

5. 近藤基金の活用について

安倍理事より説明があった。

寄附金の使用目的は県立大学薬学部の学生支援だが、医療系の学生への支援に広げること視野に入れている。

(1) 寄附講座を開設する。名称は「近藤記念静薬学友会寄附講座」とする。まず2019年4月より2022年3月までの3年間行う。

金額は1500万円

位置づけは学友会からの寄附とし、寄附金の管理者は賀川教授とする。

講座教職員の構成

客員教授…木下俊也(昭和53年卒、薬学博士) 客員講師…南彰講師 研究員…浅井知浩教授 賀川義之教授 鈴木隆教授 武田厚司教授の予定である。1月中旬に教授会の承認を得る予定である。

執務室は当面は学生ホール3階の客員教授室とする。

いずれは、寄附講座としてカリキュラムを組む予定だが、当初は薬学概論の一部として4コマを分けてもらう。現在大学側で講師依頼をして実施している曾布川氏、原田氏、田中氏の講義も寄附講座の一部に位置付ける。また1～2年時の早期体験授業から2コマ、3年次に1コマ、4年次に2コマ割り振ってもらう。講師の選任は、4月からの講座の開始に備え、講座の研究員の意見を踏まえタスクフォースにより選任する。(原則卒業生の中から選ぶ)

寄附講座の発足にあたっては開所式典を行う予定である。客員教授の件については今週の教授会で承認を得ているので、来週の教育審議会です承を得れば委嘱可能である。

(2) それ以外の支援として、学生の就職相談や進路相談、学生を低学年のうちに留学させる支援や学会などの海外派遣の際の支援、内外医療施設調査の支援にも

充てていきたい。
 選考基準や援助額などのルールは別途タスクフォースで作成する。
 賀川理事・客員教授の件については1/19の教授会で伝えた。1/17の教育審議委員会で諮る予定。

6. その他

- (1) 会員管理システムバージョンアップについて (H30.10/1更新)
 伊藤監事・ホームページを更新した。今まではPCからしか見られなかったが、これからはスマートフォンでも使えるようにした。会費の納入はLine PayやQRコードを活用してもできるようにした。
- (2) 卒業生のメールアドレス登録と年会費徴収について
 黒羽子理事・今頃の時期から研究室ごとに卒業(予定)生を対象に、メールアドレス登録と会費納入をお願いした。去年はそれで90%近くの登録が出来たので今年もやっていきたい。
- (3) 県大剣祭での学生主催の就職相談会の報告 H30.10/27
 鈴木理事・剣祭で学生代議員から、枠を取ったので就職相談会をやりたいという相談を受け、企画・実行した。学生たちが自分で企画し、Line等を通じて呼びかけたこともあって盛況だった。内容は、就職説明会というより、自分の将来や進路に対する相談会であり、40名以上の理事が参加して、1対1の面談が行われるなどして学生により刺激になったように思う。中には15分〜20分相談している学生もいた。来年以降もやってもらうよう考えている。アンケートを取ったのでホームページにアップする予定である。
- (4) 第2回静岡県立大学合同同窓会報告 H30.10/27
 木下理事・第1回の合同同窓会は3名だけだったが、2回目は就職説明会に出てくれた理事の方たちも参加して全部で20名弱の参加者があった。全体として50名くらいで立食パーティー形式で行われた。

一般社団法人静薬学友会平成31年度第1回理事会報告

日 時…平成31年4月13日(土曜日) 17時〜19時
 場 所…静岡県立大学 はばたき棟 3階 特別会議室

出席者…理事20名、監事1名

横倉輝男、安倍道治、鈴木隆、高橋千恵子、秋山欣三、浅井知浩、池田雅彦、岩崎年史、植松正吾、内田信也、大石悦子、大木明代、大沢勝一、賀川義之、木下俊也、黒羽子孝太、関本征史、仲谷博明、前田 徹、渡邊学、(以上理事)、伊藤由彦(監事)

事務局…鈴木いずみ、望月めぐみ、池田京子

欠席者…理事5名、監事1名

木苗直秀、近藤隆、武田厚司、杉井邦好、清水広介(以上理事)

若林敬二(監事) 順不同、敬称略

理事会への理事の出席者は25名中20名で定足数を満たすため、定款第37条により理事会として成立することを確認した。

議 題

1. 会長挨拶

2. 代議員の交代について

横倉会長より代議員の交代について提案があり、承認された。

代議員 就任 1年 田中夏暉(退任 6年 大嶽 瞳)

3. 平成30年度事業・決算報告

資料をもとに、伊藤監事より以下のように報告があった。「現時点での資金629万円、今年度近藤基金から3500万、その他を含め計4143万の財産がある。(但し、4月に請求予定の3月分未記入を含む。)昨年度は新システムの導入のため広報名簿事業費に100万以上かかっている。」

4. 令和元年度事業計画

資料をもとに、横倉会長から事業計画の説明があり、審議の結果承認された。

5. 一般社団法人静薬学友会第二回定時総会について

総会当日の役割分担について横倉会長より説明があった。また、総会の開催にあたって、H31年度の事業計画や予算について、資料をもとに説明があった。審議の結果、承認された。

6. 近藤基金寄附講座について

安倍理事から説明があった。

「3/22に寄付金1500万を受領した旨、大学から連絡があった。これを3年間の活動の原資とし、寄附講座の開設維持、調査研究、学生支援に使用することとする。寄附講座教員として木下教授、南講師、浅井・賀川・鈴木研究員を予定しており、既存の授業を利用して講座を実施する。学生支援などについては、鈴木先生を中心に現在内規を策定中である。内規の内容については委員長に一任いただきたい。」

審議の結果、承認された。

7. 定款の一部変更について（審議事項）

【現行】

（社員総会議事録）

第24条 社員総会の議事については、法令に定める事項を記載した議事録を作成

し、議長及び出席理事が署名又は記名押印し、社員総会の日から10年間当法人の主たる事務所に備え置くものとする。

【変更案】

（社員総会議事録）

第24条 社員総会の議事については、法令に定める事項を記載した議事録を作成

し、議長及び出席理事2名が署名又は記名押印し、社員総会の日から10年間当法人の主たる事務所に備え置くものとする。

変更の理由

定款の第24条は総会の議事録について定めた項目であり、議事録への署名については議長と出席理事が署名を行うこととなっているが、事務手続きの簡略化のため議事録署名人のうち出席理事の署名人数を2名に変更することを提案する。

審議の結果、承認された。

8. 第2回静薬学友会賞の募集について

横倉会長より提案があった。委員長の浅井委員長のもと、委員で考えてもらえばと思う。

審議の結果、承認された。

9. その他

(1) 木下理事から、4月に実施された新入生ガイダンスに関して以下の報告が

あった。

「学生が活発に活動してくれている。学生主導で新入生歓迎会が盛大に催された。ほとんどの1年生が参加し、学生の満足度も非常に高かった。入学式の前日のイベントで、不安なく入学式に入れるのが非常に良かったと思う。」

これに関連して、以下の質疑応答があった。
渡邊理事：学生の地域ごとの集まりなどに予算を出して、つながりや組織化を促してはどうか。

この件については引き続き検討することとなった。

(2) 黒羽子理事から卒業時の会員登録について、ほぼ100%の卒業生、修了生に納入・登録が出来ている旨、報告があった。

(3) 岩崎理事から、総会時発行している研修シールの管理の厳格化について提案があった。

(4) 賀川理事より、内西いよ子基金（おおぞら基金、15,000万）を薬学部で使えるようになった旨、報告があった。

一般社団法人静薬学友会第二回定時総会議事録

日時…令和元年5月19日（日）13時30分～15時

会場…グランシップ9階910会議室

出席者…代議員22名、理事16名、監事2名

代議員…五十嵐千乃、池田潔、井上泰秀、大木明代（理事兼任）、笠井智代、河

本光宏、齋藤和弘、清水広介（理事兼任）、多田義孝、田中夏暉、田中

喜久夫、中村洸友、中村和重、丹羽智紀、深澤由紀子、藤本司、松田

通明、三上栄一、三坂真元、宮国大介、村松郁延、本島玲子

理事…浅井知浩、安倍道治、池田雅彦、岩崎年史、大石悦子、大澤勝一、賀川

義之、木下俊也、黒羽子孝太、鈴木隆、高橋千恵子、仲谷博明、前田

徹、横倉輝男（代表）

監事…伊藤由彦、若林敬二

事務局…鈴木いずみ、望月めぐみ、池田京子

会員…木村晋一郎、中村共子、若尾直司、保坂卓臣、南彰、龍聡平、吉成浩

一（特別講演会講師）、眞鍋敬（薬学部長）、佐々木崇光（薬学部教員）、

志津怜太（薬学部教員）

欠席者…代議員15名、理事9名

代議員…安部友涼、石原由美、伊藤めぐみ、内田信也（理事兼任）、勝山善彦、加藤彩香、佐藤泰士、関本征史（理事兼任）、高橋忠伸、中山大輔、松浦大輔、松崎雅英、水島教之、渡邊学（理事兼任）、綿野尚幸
 理事…秋山欣三、植松正吾、木苗直秀、近藤隆、杉井邦好、武田厚司
 順不同、敬称略

代議員37名中、出席22名、欠席により議決権行使を行った代議員15名で決議に必要な定足数を満たすため、定款5章第22条により総会として成立することを確認した。
 議長は定款に従い、横倉輝男代表理事が担当し、総会を進行した。

第1号議案 平成30年度事業報告（報告）

横倉代表理事が、理事会の開催、静岡県立大学事業への参加、地区同窓会活動、静薬学友会報の発行、近藤基金タスクフォース委員会の活動を含めた平成30年度事業を報告した。

第2号議案 平成30年度会計報告（審議）

伊藤監事が報告した。
 出席代議員22名全員の挙手により、議案が承認された。

第3号議案 定款の一部変更について（審議）

横倉代表理事が、変更案を説明した。定款24条の社員総会議事録について、手続きの簡素化（現在総会の議事録の署名または記名押印については、議長および出席理事全員となっているが、議長および出席理事2名に変更する）のために、定款の変更が提案された。
 出席代議員22名全員の挙手により、議案が承認された。

第4号議案 平成31年度事業計画（報告）

横倉代表理事が平成31年度事業計画を説明した。

第5号議案 平成31年度予算（報告）

伊藤監事が平成31年度予算を説明した。

河本代議員…近藤基金の今後の運用計画について、詳しく説明していただきたい。

横倉代表理事…当面は在学学生の海外へ渡航、短期留学の補助に使用する予定であるが、今後の使用については議論していきたい。

出席代議員22名全員の挙手により、議案が承認された。

第6号議案 その他（報告）

(1) 近藤記念静薬学友会寄附講座の開設
 木下理事が寄附講座の概要について、配布資料に従い説明した。
 河本代議員…寄附講座への支出の妥当性について
 横倉代表理事…寄附講座の設立が初めてであり、金額の妥当性についてはまだ始めてみないとわからない。今後の状況に応じて支出金額が変わってくる可能性がある。
 河本代議員…学友会とは独立しているとのことだが、学友会から寄附講座OB・OGの立場から提案・意見ができるのか。
 木下理事…寄附講座の活動内容に賛同し、学生への情報提供（講義内容や就職など）の支援ができるのであればぜひ受け入れたい。

(2) 代議員の増減について

横倉代表理事…新年度に伴い、学部1年生の田中夏暉君が新たに代議員に加わった。また3月の卒業に伴い1名減少した。
 総会に参加した学生代議員が自己紹介を行なった。

(3) 同窓会報告

松田代議員…昨年6月に京都にて関西地区同窓会を開催した。
 本島代議員…昨年10月に東京にて関東地区同窓会を開催した。
 三上代議員…昨年12月に名古屋にて東海地区同窓会を開催した。

(4) 議事録署名人の指名

横倉代表理事より、議事録署名人について以下の2名を指名した。
 木下俊也理事
 黒羽子孝太理事

平成31年度（令和元年度）第2回理事会議事録

日時…令和元年7月13日（土曜日） 15時～17時
 場所…静岡県立大学 はばたき棟3階 特別会議室

出席者…理事14名、監事1名

横倉輝男、木苗直秀、近藤隆、安倍道治、高橋千恵子、秋山欣三、岩崎年史、植松正吾、杉井邦好、清水広介、大石悦子、木下俊也、関本征史、仲谷博明、(以上理事)、若林敬二(監事)

事務局…鈴木いずみ、池田京子

欠席者…理事11名、監事1名

武田厚司、鈴木隆、賀川義之、池田雅彦、浅井知浩、前田 徹、黒羽子孝太、内田信也、大沢勝一、渡邊 学、大木明代、(以上理事) 伊藤由彦(監事) 順不同、敬称略

理事会に先立ち、定款の差替えが行われた。

寄附金の協力をいただいた近藤隆氏に楯の授与が行われた。

理事会への理事の出席者は25名中14名で定足数を満たすため、定款第37条により理事会として成立することを確認した。

審議事項

1. 理事会日程の変更について

横倉会長から、社団法人化に伴い、会計の締め切りが変更となったため、理事会を年3回(5月、9月、1月のそれぞれ第二土曜日)、総会を6月(第一日曜日)に変更したいとの提案があった。

安倍理事から、意見があった。来年度は理事改選であるため、1月の理事会で諸々を準備していく必要がある。

審議の結果、承認された。

2. 近藤基金の運用について

安倍理事から、寄附講座に関する説明があった。寄附講座は10年程度継続できる見込み(運営資金500万/年)であるので、第一期(2022年)のうちに、独自のカリキュラムを作っていきたい。留学などの資金援助についても規定を定めて考えてゆく。

木下理事(寄附講座客員教授)から、寄附講座で行ってきた授業(全7回、これまで5回)の報告があった。また、他の事業(就職・進路相談、学生留学支援)については、近々情報を発信し、9月末くらいから受付をしていく予定。

3. 平成31年度(令和元年度)薬学生涯研修講座について

若林監事から説明があった。病院と薬局の連携が必要と考え、今回のテーマ「薬・薬連携の在り方を考える」とした。

4. 第2回静薬学友会賞の受賞者選考について

大石理事から説明があった。前回は、目的、対象業績、年代、公平性、他学会の受賞の有無、などについて考慮して選考した。今回は、浅井委員長が準備された募集要項だが、まだ審議されていない。ご意見を頂きたい。

横倉会長…賞にふさわしい人材がいれば推薦いただきたい。
仲谷理事…資料では推薦形式(自薦・他薦)を決める必要があると認識しているが、どうか。

横倉会長…理事の異論がなければ自薦、他薦いずれも問題ない、ということにしたいのでご承諾いただきたい。

大石理事…できれば、地方で頑張っているような方を表彰したいが、なかなか推薦があがってこない。

横倉会長…地方選出の代議員に推薦いただくのはどうか。

5. リレーフォーライフ2019への協力について 令和元年9/21(土) 9/22(日)

若林監事から説明があった。県大会場で行われるのは本年で7年目になる。今回はプログラムに名前を入れ、静岡市薬剤師会とチームを組んで参加の予定。できれば現役の学生にチームに加わってもらいたいと考えている。

報告事項

議題

6. 静薬学友会報第87号の刊行について

審議で上がっていた「静薬学友会賞の募集要項」を掲載する。

7. その他

地区同窓会運用ガイドについて仲谷理事から資料をもとに説明があった。本会で確認・承認いただいた後、各地区同窓会にお知らせしたい。

貸借対照表

一般社団法人 静薬学友会
全事業所

[税込] (単位: 円)
平成31年 3月31日 現在

《資産の部》		《負債の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	42,301		
普通預金	41,395,494		
現金・預金計	41,437,795		
(売上債権)			
未収金	24,000		
売上債権計	24,000		
流動資産合計	41,461,795		
資産合計		41,461,795	
【流動負債】			
未払金	249,997		
預り金	4,575		
未払法人税等	65,000		
流動負債合計	319,572		
負債合計		319,572	
《正味財産の部》			
設立時正味財産	6,290,010		
当期正味財産増減額	34,852,213		
正味財産合計		41,142,223	
負債及び正味財産合計		41,461,795	

2

決算報告書

第 1 期

自 平成30年 4月 2日
至 平成31年 3月31日

一般社団法人 静薬学友会

静岡県静岡市駿河区谷田 5 2 番地 1

1

正味財産増減計算書

一般社団法人 静薬学友会

[税込] (単位: 円)
自 平成30年 4月 2日 至 平成31年 3月31日

	一般会計	近隣基金	災害支援基金	総合計
【經常収益】				
【受取会費】				
正会員受取会費	3,332,000			3,332,000
受取入会金	6,080,000			6,080,000
【受取寄付金】				
受取寄付金		50,000,000		50,000,000
【その他収益】				
受取利息	389		4	393
雑収益	334,000			334,000
經常収益計	9,746,389	50,000,000	4	59,746,393
【經常費用】				
【事業費】				
広報名簿事業費	1,447,514			1,447,514
会報発行費	1,399,959			1,399,959
退管記念事業費	235,000			235,000
大学行事援助費	180,000			180,000
生涯学習費	286,444			286,444
渉外費	109,300			109,300
会員支援活動費	567,726			567,726
支払寄付金		15,000,000		15,000,000
事業費計	4,225,943	15,000,000	0	19,225,943
【管理費】				
(人件費)				
給料 手当	2,931,000			2,931,000
法定福利費	8,640			8,640
人件費計	2,939,640	0	0	2,939,640
(その他経費)				
会議費	1,547,710			1,547,710
通信運搬費	89,301			89,301
消耗品費	170,183			170,183
修繕費	19,796			19,796
水道光熱費	25,425			25,425
地代家賃	3,690			3,690
新聞図書費	8,748			8,748
支払手数料	798,744			798,744
その他経費計	2,663,597	0	0	2,663,597
管理費計	5,603,237	0	0	5,603,237
經常費用計	9,829,180	15,000,000	0	24,829,180
当期經常増減額	△ 82,791	35,000,000	4	34,917,213
【經常外収益】				
經常外収益計	0	0	0	0
【經常外費用】				
經常外費用計	0	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	△ 82,791	35,000,000	4	34,917,213
法人税・住民税及び事業税	65,000	0	0	65,000
当期正味財産増減額	△ 147,791	35,000,000	4	34,852,213
設立時正味財産額	5,652,713	0	637,297	6,290,010
次期繰越正味財産額	5,504,922	35,000,000	637,301	41,142,223

4

財産目録

一般社団法人 静薬学友会
全事業所

[税込] (単位: 円)
平成31年 3月31日 現在

《資産の部》		《負債の部》	
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	42,301		
普通預金	41,395,494		
静岡銀行 草薙支店 0934106	(40,498,569)		
郵便局 二三八 5637782	(73,084)		
清水銀行 美術館前 2192429	(637,301)		
郵便振替口座	(186,540)		
現金・預金計	41,437,795		
(売上債権)			
未収金	24,000		
売上債権計	24,000		
流動資産合計	41,461,795		
資産合計		41,461,795	
【流動負債】			
未払金	249,997		
預り金	4,575		
未払法人税等	65,000		
流動負債合計	319,572		
負債合計		319,572	
正味財産			
			41,142,223

3

静薬学友会賞 令和2年度 候補者募集要項

静岡県立大学薬学部同窓会（静薬学友会）では、会員相互の親睦と学識及び職能の向上を図るとともに、静岡県立大学薬学部及び大学院薬学研究院の発展に貢献し、併せて社会に寄与することを目的に、会員の顕著な功績を表彰し、今後の活躍を奨励する「静薬学友会賞」の候補者を下記の要領で募集します。

1. 資 格

- (1) 原則として令和2年4月1日現在で5年間以上継続して（静岡県立大学薬学部または大学院薬学研究科（院）に在籍していた期間も含む）静薬学友会の会員であること（自薦・他薦可）。
- (2) 令和2年4月1日現在で静薬学友会の理事に相当する者が応募する場合、本賞の表彰選考委員会から除外する。
- (3) 本応募時に、静薬学友会の会費を納入した会員であること。

2. 対象とする業績

個人またはグループ（募集資格に該当する者に限る）に対して、薬学、薬事に関連した分野またはその他の分野に関して優れた業績を表彰する。本年度の募集分野は「①薬剤師の職能向上に大きく貢献した活動」または「②社会に大きく貢献するものを提供した研究成果」とする。

3. 応募方法

下記応募書類を書留便で、下記の本会事務局までお送りください。

- (1) 本会所定の応募申請書 1部
- (2) 募集分野に関する主たる業績（学会誌、業界紙、学術雑誌の論文、報告、記事、メディア報道など）の別刷およびその参考となる資料のコピー 最大5つまで 各1部
- (3) 応募書類の継続5年以上の本会会員である欄にチェックしてください。

4. 審査方法

当会で設置した表彰選考委員会において選考し、理事会で決定する。

5. 締 切：令和元年10月末日（消印有効）

6. 受 賞 件 数：2件程度（賞状、副賞）

7. 受賞者の決定：令和2年1月

8. 授 賞 式：令和2年度 静薬学友会 総会（6月）

9. 受 賞 講 演：令和2年度 静薬学友会 総会

10. そ の 他

- (1) 応募用紙は静薬学友会ホームページからダウンロードしてください。または、切手120円分を添えて下記連絡先まで請求してください。
- (2) 応募書類の送付、照会は下記連絡先をお願いします。
- (3) 応募書類は、返却しません。
- (4) 受賞者の氏名、受賞テーマは本会のホームページに掲載します。
- (5) 受賞者には、静薬学友会 総会（6月）で開催される授賞式への出席ならびに受賞講演をお願いしております。また、学友会報への原稿執筆をお願いしております。

連 絡 先：

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学薬学部内
一般社団法人静薬学友会
shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp
電話 (054) 265-8763 FAX (054) 265-8769

静薬学友会中国地区同窓会総会開催のお知らせ

この度 広島にて静薬学友会中国地区同窓会総会を下記のとおり開催いたします。是非、この機会を利用して地域や世代間の交流を図り、静薬学友会の絆を深めましょう。皆様お誘い合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時：令和元年11月17日（日）12：30～17：00

場 所：ホテル広島ガーデンパレス（JR広島駅新幹線口から徒歩5分）
〒737-0052 広島市東区光町1-15（TEL 082-262-1122）

<総 会> 12：30～13：00

「静岡県立大学の近況」静薬学友会会長 横倉 輝男 先生（昭和40年卒）

<講演会> 13：00～15：00（日本薬剤師研修センター1単位認定）

(1)「現代の漢方医療で薬剤師と薬学に求められるもの」

岡山大学薬学部 特任教授 波多野 力 先生（昭和52年卒）

(2)「基礎から伸ばそう漢方バージョンアップ薬能から考える漢方」

広島国際大学薬学部 教授 中島 正光 先生（漢方医・西洋医）

<懇親会> 15：30～17：00

懇親会費（当日集めさせていただきます）：4,000円（お子様無料）

【懇親会費割引特典】

- ・会員さんをもう1名連れてきてくれたら割引：6,000円（お二人で）
- ・ご夫婦割引会費：6,000円（お二人で）

<薬剤師研修シールの配布について> 【1単位】

1. 【薬剤師名簿登録番号】を参加申込の際に必ずお知らせください。
2. 当日、シールの受領に際して【薬剤師名簿登録番号】が必要となります。
3. 【薬剤師名簿登録番号】が不明な場合はシールをお渡し出来ませんのでご注意ください。

<参加申込方法>ご参加いただける方は同封のFAX用紙、Eメールまたは静薬学友会ホームページの会員専用サイト「マイページ」より令和元年11月2日（土）までにお申し込み下さい。

中国地区同窓会代表 池田 潔 広島国際大学薬学部薬学科
(TEL・FAX 0823-73-8936)

参加申込先：

一般社団法人静薬学友会

TEL 054-265-8763 FAX 054-265-8769

E-mail：shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

静薬学友会ホームページ：http://shizuyaku.jp/

（ホームページでもご案内をしております。）

静薬学友会東海地区同窓会 薬剤師セミナー2019のお知らせ

静薬卒業生の皆様方には益々ご清栄のことと推察いたします。

さて、下記により薬剤師セミナー2019の開催を予定しております。

ご多忙のことと思いますが、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

1. 日 時：令和元年12月1日（日）午後1時30分～

2. 場 所：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）1110会議室

〒450-0002 名古屋市中村区名駅4丁目4-38 TEL：052-571-6131

3. 演 題

①「物言う薬剤師のススメ」～情報提供・処方提案の取組み～

（株）セイヨウトレーディング監査役 エース薬局船附店薬局長

大森智史（平成17年卒）

②「調整中」

詳細が決まりましたら静薬学友会ホームページにアップロードいたします。

4. その他

①申込み〆切り：11月22日（金）

②参加希望の方は、薬剤師免許番号を氏名と共に事前にお知らせください。

（日本薬剤師研修センター集合研修シールを配布予定）

③意見交換会（懇親会）を研修会場近くで午後5時より予定しております。

（参加費：¥4,000程度）

連絡先

愛知県がんセンター薬剤部 松崎雅英

（静薬学友会代議員・静薬学友会東海地区同窓会代表）

TEL：052-762-6111（内6434） E-mail：mmatsuzaki@katch.ne.jp

または 一般社団法人静薬学友会

TEL 054-265-8763 FAX 054-265-8769

E-mail shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

静薬学友会ホームページ <http://shizuyaku.jp/>

（ホームページでもご案内をしています。）



静薬学友会ホームページをご活用ください

静薬学友会ではホームページを通して会員の皆様にさまざまなご案内をしております。
会員の皆様、ぜひホームページをご覧ください、ご活用ください。

一般社団法人 静薬学友会

マイページ
WEB名簿システム

静薬学友会について

会長挨拶
定款
財務状況

コンテンツ

お知らせ
イベント
リレーエッセイ
ギャラリー
旧サイト

Topics

2018.05.29 一般社団法人静薬学友会第一回定時総会報告
2018.05.21 役員の見直しについて（報告）
2018.05.07 代議員の選任について（報告）
2018.05.01 一般社団法人静薬学友会第一回定時総会（ご案内）
2018.05.01 関西地区同窓会（支部総会）開催のご案内

一覧を見る

静岡県立大学薬学部
静岡県立大学

キーワードで検索する

静岡県立大学薬学部同窓会・静薬学友会
facebook ページ

静薬創立 100 周年記念行事
The 100th anniversary of the foundation of Shizuoka

静岡県立大学薬学部
静岡県立大学

Event

2018.05.29 一般社団法人静薬学友会第一回定時総会報告
2018.04.04 モバイルファーマシー設置式典が行われました

静岡県立大学薬学部同窓会 - ...
「いいね！」済み 91 「いいね！」の数

静岡県立大学薬学部同窓会・静薬学友会
約7ヶ月間
OBで元教員の林先生の記事です。



静薬学友会ホームページ <http://shizuyaku.jp>

☆掲載記事☆

薬学講座のご案内、同期会のお知らせ、求人情報、静薬学友会の活動、母校の活動などをご案内しております。

☆マイページ☆ 【会員専用ページ】ログインには会員ID／パスワードが必要です。

1. 静薬学友会に登録しているご自身の情報を確認、修正できます。
2. 同窓生の連絡先などを知ることができます。
3. 年会費の納入がクレジット払いで行えます。
4. 静薬学友会主催（または共催）の薬学講演会や各種会合への参加登録が簡単に行えます。

※掲載してほしい記事がある、自らコラムを書きたい、求人情報を載せたい、そういった方は事務局までお問い合わせください。

※メールアドレスをお持ちの方はぜひアドレスを静薬学友会にご登録ください。同窓会、同門会、支部会、講演会等各種情報のご案内をお送りいたします。

問い合わせ先 ▶▶ 一般社団法人静薬学友会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学薬学部内
TEL 054-265-8763 FAX 054-265-8769

(10:00~15:00以外は留守番電話での対応とさせていただきます)

Eメール shizuyaku@u-shizuoka-ken.ac.jp <http://shizuyaku.jp/>

一般社団法人静薬学友会 代議員 (37名)

地区別50音順 敬称略

氏名	卒業・修了年 (学生は所属)	地区	氏名	卒業・修了年 (学生は所属)	地区
丹羽 智紀	博士課程	院生	石原 由美	昭和57年	静岡県
田中 夏暉	1年	学生	内田 信也	平成5年	静岡県
五十嵐 千乃	2年	学生	大木 明代	昭和62年	静岡県
宮国 大介	3年	学生	清水 広介	平成13年	静岡県
中村 洸友	4年	学生	高橋 忠伸	平成11年	静岡県
齋藤 和弘	博士課程	学生	田中喜久夫	昭和59年	静岡県
安部 友涼	6年	学生	深澤由紀子	昭和59年	静岡県
水島 教之	昭和54年	北海道	渡邊 学	平成7年	静岡県
三坂 眞元	平成16年	東北	綿野 尚幸	平成21年	静岡県
加藤 彩香	平成26年	関東	笠井 智代	平成18年	東海
佐藤 泰士	平成5年	関東	松崎 雅英	昭和60年	東海
関本 征史	平成8年修了	関東	三上 栄一	昭和49年	東海
多田 義孝	平成1年	関東	河本 光宏	昭和57年	関西
中村 和重	平成4年	関東	藤本 司	昭和63年	関西
松浦 大輔	平成1年	関東	松田 通明	平成2年	関西
本島 玲子	昭和58年	関東	池田 潔	昭和54年	中国
勝山 善彦	昭和57年	長野県	井上 泰秀	昭和59年	四国
村松 郁延	昭和44年	北陸	中山 大輔	平成8年	九州・沖縄
伊藤めぐみ	平成15年	静岡県			

一般社団法人静薬学友会 役員 (27名)

50音順 敬称略

氏名	卒業・修了年	役職	氏名	卒業・修了年	役職
秋山 欣三	昭和56年	理事	近藤 隆	昭和46年	理事
浅井 知浩	平成9年	理事	清水 広介	平成13年	理事
安倍 道治	昭和46年	理事 副会長	杉井 邦好	昭和55年	理事
池田 雅彦	昭和60年	理事	鈴木 隆	昭和54年	理事 副会長
岩崎 年史	昭和46年	理事	関本 征史	平成8年修了	理事
植松 正吾	昭和43年	理事	高橋 千恵子	昭和51年	理事 副会長
内田 信也	平成5年	理事	武田 厚司	昭和53年	理事
大石 悦子	昭和44年	理事	仲谷 博明	昭和45年	理事
大木 明代	昭和62年	理事	前田 徹	昭和61年	理事
大澤 勝一	昭和59年	理事	横倉 輝男	昭和40年	代表理事 会長
賀川 義之	昭和58年	理事	渡邊 学	平成7年	理事
木苗 直秀	昭和40年	理事	伊藤 由彦	平成14年	監事
木下 俊也	昭和53年	理事	若林 敬二	昭和46年	監事
黒羽子 孝太	平成8年	理事			

編 後	集 記
--------	--------

先日、以前留学していたカリフォルニア大学バークレー校(UCB)で講演する機会があり、パークレーを11年ぶりに訪れました。その際、写真のようなロボットがキャンパス周囲の歩道をあちこち動き回っていました。このロボットは何をしていると思いますか?これはKiwiBotと呼ばれるロボットで、イ

ンターネットで料理を注文するとお店に向き、料理を受け取ったのち、指定場所まで料理を届けてくれます。パークレーの街並みも大きく変わっており、11年でこんなにも変化するものかと驚きました。しかしながら、草薙駅前もこの10年で大きく変わったことを考えると、当然のことなのでしょう。県立大学を卒業後、はじめて大学を訪れる方は皆さん草薙駅周辺の変化に驚かれます。今、駅前には地上27階建ての高層マンションや常葉大学草薙キャンパスがあります。草薙駅には県大・美術館口と常葉学園口の二つの出口があり、国道一号線側にも出られるようになっていきます。つい先日の5月25日の静岡新聞ニュースに、「学生の胃袋を満たした38年に幕 静岡・清水の定食店『曙』」という記事がありました。記事には、「87年に県立大ができる」と学生の客が増え、定食は全てご飯のおかわり無料。研究室で遅くまで勉強していた薬学部生や、部活終わりの運動部員が空腹を満たした。」とありました。お世話になった方も多いのではないのでしょうか。学生の頃よくお世話になった居酒屋「ゆきの」や「だるま」は閉店しましたが、「焼き鳥道場」や「たくちゃん」「もちづき」などはまだ頑張っています。



UCBに話を戻すと、UCBではAlumni(同窓会)のネットワークが有効に活用されており、母校を支える大きな役割を果たしています。静薬学友会においても、今号で特集させていただいた近藤記念静薬学友会寄附講座の開設や静岡県立大学おおぞら基金への寄附をはじめとして、その活動は多くの卒業生の方々に支えられています。また最近では、学友会代議員やコラボレーターの新入生オリエンテーションイベントを開催したり地方人会を再活性化させるなど、多方面で活躍しています。今後も静薬学友会は、この時代を勝ち抜くための強力なネットワークとなることは疑う余地がありません。今後とも、静薬学友会の活動に関しましてお力添え頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

会報編集委員 南 彰(平成12年卒)

訂 正

静薬学友会報第86号(2018年10月1日発行)の掲載内容に誤りがありました。

下記の通り訂正し、お詫びを申し上げます。

第86号 4ページ

木村正伸様 卒業年次

誤 (昭和59年卒)

正 (昭和62年卒)

会報担当

- | | | | |
|-----|---------------|----------------|-----------------|
| 委員長 | 黒羽子孝太(平成8年卒) | 理事 | 薬学部 免疫微生物学分野) |
| | 武田 厚司(昭和53年卒) | 理事 | 薬学部 統合生理学分野) |
| | 大木 明代(昭和62年卒) | 理事 | |
| | 南 彰(平成12年卒) | 薬学部 | 生化学分野) |
| | 伊藤 由彦(平成14年卒) | 監事 | 薬学部 薬食研究推進センター) |
| | 横倉 輝男(昭和40年卒) | 一般社団法人静薬学友会会長) | |

静薬学友会報 第87号

令和元年十月一日発行

〒422-8526 静岡市駿河区谷田五二一 静岡県立大学薬学部内

発行者 一般社団法人静薬学友会

振替口座 〇〇八二〇一八一九〇二二

TEL 〇五四―二六五―八七六三

FAX 〇五四―二六五―八七六九

メールアドレス shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

ホームページアドレス http://shizuyaku.jp/

正会員の皆様へ 会費納入のお願い

■会費の種類について

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 1. 年会費 | 「2,000 円 / 1 年間」を年度毎納入していただきます |
| 2. 10 年会費 | 「20,000 円 / 10 年間分」を一括前納していただきます |
| 3. 終身会費 | 「50,000 円 / 終身分」を一括前納していただきます |

■納入方法について

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1. 郵便局 | 同封の振込用紙にて郵便局窓口および郵便 A T Mにて納入していただけます |
| 2. コンビニエンスストア※ ² | 同封の振込用紙に印字されたバーコードにて、年会費を納入していただけます |
| 3. モバイル決済※ ² | 同封の振込用紙に印字されたバーコードおよびQRコードにて、年会費を納入していただけます
<ul style="list-style-type: none"> ●モバイルレジ ●Line Pay ●Pay B ●ジャパンネット銀行 ●楽天E d y (Android のみ) に対応しております |
| 4. クレジットカード決済 | 静薬学友会ホームページ (http://shizuyaku.jp) の「マイページ※ ³ 」(会費支払・各種お申込み)にて納入していただけます |

		会費の種類		
		年会費 (2,000 円)	10 年会費 (20,000 円)	終身会費 (50,000 円)
納入方法	1. 郵便局	○	○ ※ ¹	○ ※ ¹
	2. コンビニエンスストア	○ ※ ²	×	×
	3. モバイル決済	○ ※ ²	×	×
	4. クレジットカード決済	○	○	○

※¹. 郵便局窓口にて同封の振込用紙に印字された振込金額を二重線で訂正することにより納入していただけます

※². 納入方法「2.コンビニエンスストア」および納入方法「3.モバイル決済」は令和2年3月15日までお使いいただけます。期日以降は他の方法で納入してください

※³. 「マイページ」ログインに必要なIDとパスワードの再発行を希望する方は、静薬学友会事務局 (E-mail: shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp) に問合せをお願いします

〔 件名 : パスワード再発行希望

内容 : 会員コード、氏名、フリガナ、卒業年、在籍教室、電話番号、送信先メールアドレス 〕

問合せ先 : 一般社団法人静薬学友会・事務局

TEL 054-265-8763

E-mail shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

一般社団法人静薬学友会 宛 (FAX 054-265-8769)

令和元年度薬学生涯研修講座

参加申込書

日時: 令和2年2月23日(日) 13:00~16:30

会場: 静岡県男女共同参画センター あざれあ 2階 大会議室 (静岡駅北口を西に 700m)

主催: 一般社団法人静薬学友会・静岡県立大学薬学部

※日本薬剤師研修センター2 単位認定(予定)

1.参加者氏名

卒業年次:

連絡先ご住所

電話番号:

2.参加者氏名

卒業年次:

連絡先ご住所

電話番号:

通信欄

- 講座への参加申し込みは、**令和2年2月7日(金)**までをお願いいたします。
- 卒業生以外の参加も受け付けますので職場の方もお誘い合わせてご参加ください。
- 本用紙に **2名までご記入いただけます**が、参加者2名を超える場合は通信欄にご記入ください。
- 講座参加費については、当日集めさせていただきます。(参加費:500円 ただし学生は無料)

問い合わせ先 / 令和元年度薬学生涯研修講座運営委員会
一般社団法人静薬学友会

TEL: (054)265-8763 FAX: (054)265-8769

Eメール: shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

ホームページ: <http://shizuyaku.jp/>

企業内薬剤師、管理栄養士募集!

「あなたの資格、活かしませんか?」

募集要項

応募資格 / 薬剤師・管理栄養士有資格者の方、年齢25~68歳まで
ブランクある方もO.Kです。

業務内容 / 健康食品・化粧品企画・開発・学術、
Webカタログの文章作成、製品説明

勤務地 / 当社事業所【富士・池袋・大阪・米国ロサンゼルス】

待遇等 / 年収400~600万、時給1,200~1,800円

正社員・パート勤務
在宅勤務
(クラウドワークス)等
応相談

三洋薬品HBC株式会社は、89年の歴史を有する配置薬事業、創業28年のテレホンマーケティング事業、創業20年のEコマース事業、米国・中国に4拠点有する海外事業が集結し、健康・美容に関する製品、サービス、情報をオムニチャネル・マルチメディアでお届けし、お客様の健康・美容生活に貢献できるCSRの高い企業、そして2030年には創業100周年を迎え、更にグローバルに展開する年商100億円企業を目指しております。

代表取締役 近藤 隆 (昭和46年 製薬科卒)

お問い合わせ先

TEL:0545-40-9000

三洋薬品HBC株式会社
総務課 近藤、中村まで

お客様のご要望にすばやくご対応するため、
三洋薬品HBC株式会社のネットワークを活かし、
全国45箇所の拠点に営業所を展開しています。



令和元年度 薬学生涯研修講座

薬・薬連携の在り方を考える

—最新医療と地域連携の視点から—

主催／一般社団法人静薬学友会・静岡県立大学薬学部

日 時／令和2年2月23日(日) 13:00~16:30 (12:30受付開始)

会 場／あざれあ2階 大会議室 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1 TEL 054-255-8440

参加費／500円(学生無料) 参加定員／140名(同窓会会員以外のご参加も受け付けます)

後 援／静岡市薬剤師会、静岡県薬剤師会、静岡県病院薬剤師会

共 催／日本薬剤師研修センター ☆日本薬剤師研修センター集合研修2単位

超高齢社会を迎えた我が国においては、疾病の様相も大きく変化しており、それに伴い薬学領域の研究開発、国や地方自治体の薬事行政、病院や薬局における薬剤師業務も大きく変わっています。今回の研修会では、病院薬局と調剤薬局との連携の在り方をテーマにして、最新のがんゲノム医療に取り組む病院薬局の現状の紹介、及び地域連携に積極的に取り組む柏市、菊川市、宝塚市の現況と課題について講演頂きます。更に薬・薬連携の在り方についてのパネルディスカッションも企画しています。

プログラム

【開会挨拶】 13:00 一般社団法人静薬学友会 会長 横倉輝男
静岡県立大学 薬学部長 眞鍋 敬

座長：一般社団法人静薬学友会 理事/副会長 高橋千恵子, 理事 渡邊 学

【講演1】 **最新医療** 13:10~14:10 (60分)

がんゲノム医療の提供体制と病院薬剤師の役割

国立がん研究センター東病院薬剤部 竹野美沙樹
(がんゲノム医療コーディネーター、がん専門薬剤師)

【講演2】 **地域連携** 14:20~15:50 (各講演30分)

千葉県柏市モデル

のぞみの花クリニック 餅原弘樹

(緩和薬物療法認定薬剤師、外来がん治療認定薬剤師)

静岡県菊川市モデル

菊川市立総合病院 薬剤科長 瀧 祐介 (平成12年卒)

兵庫県宝塚市モデル

薬局ららくファーマシー 畑 世剛

(宝塚市薬剤師会 理事・宝つーかーの会 代表世話人)

【パネルディスカッション】 15:50~16:20 (30分)

薬・薬連携の在り方を考える パネリスト：竹野美沙樹、餅原弘樹、瀧 祐介、畑 世剛

【閉会挨拶】 16:20 一般社団法人静薬学友会 副会長 鈴木 隆 【終了16:30】

令和元年度薬学生涯研修講座運営委員会 委員長 若林敬二

問い合わせ・参加申込／一般社団法人静薬学友会

〒422-8526静岡県静岡市駿河区谷田52-1

TEL (054)265-8763・FAX:(054)265-8769

Eメール: shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp 静薬学友会ホームページ<http://shizuyaku.jp/>

※本会ホームページまたは会報末頁のFAX用参加申込書にて **令和2年2月7日(金)** までにお申込ください。